

2

0

1

2

KIT同窓会誌

平成24年 No.6

工 織

京都工芸繊維大学同窓会

## 目次

■ 会 告	1
■ ご 挨拶	2
本城博一 古山正雄 江島義道 山下 馨	
■ 退職教員挨拶	5
伊倉宏司 板谷 明 黒田裕久 志波康博 杉村順夫 角田素行 高倉章雄 巽 二郎 知念良教 日向 進 山田保治 山本雅敏	
■ トピックス	11
KIT 東京会設立 2012.1.6	
■ KIT 同窓会 定期総会及び懇親会報告	12
■ KIT 同窓会 講演会開催報告	15
■ 被災学生への KIT 同窓会からの支援	15
東日本大震災による間接的被害を受けた学生に対する KIT 同窓会からの支援	
■ 被災地域への大学からの支援	16
宮城県への仮設住宅にて住環境改善支援活動を継続的に行う 0311	
■ 平成23年度 KIT 同窓会 教育支援事業	18
■ 寄 稿	19
卒業して60年 KIT 支部発展をめざして 母校で学んだ専門知識で一生を送った幸せを思う 在学期(1948~1954年)のラグビー部 我われの同期会 超高分子量ポリエチレンとともに35年 「学術研究の将来を担う」立場として ものづくりと私 衣笠禄栄会 トロッコ列車と嵐山例会 14年つづいた夫婦参加の旅行会 ー建築科昭和25年卒同期会ー 杉本忠三氏の母校への貢献	
■ KIT iTech Program による留学体験記	28
タイ留学体験記 デルフト工科大学での経験 韓国へのショートビジットを経験して スイス滞在記	
■ お知らせ	30
「艸丘展」と同窓生の交友 同窓美術展の意義とご案内 衣笠同窓会だより 平成24年度理事会・総会のご案内 S25養蚕科だより KIT ゴルフ会コンペの開催と会員募集 卒業証明書等の申し込みについて	
■ 大学だより	32
美術工芸資料館の活動 変わり続ける附属図書館に、ぜひお立ち寄りください	
■ 課外活動	35
弓 道 部 広告研究会 自動車部 室内管弦楽団 写真研究部 軟式野球部 美 術 部 陸上競技部	
■ 叙位・会員の受賞	37
■ 教員の受賞	37
■ 教員の異動	37
■ 平成23年度 博士学位取得者と学位論文題名	38
■ 卒業生・修了生の就職先・進学先	40
■ 訃報・物故会員	42
■ 年会費等の納入について	43
■ プチ情報	52
■ お詫びと訂正のお願い	52
■ 編集委員	52
■ 表紙デザインについて	52
■ 編集後記・HP の刷新	

## ■ 会 告

平成24年度の総会を、下記のとおり開催します。会員諸兄姉の多数のご参集をお願いします。  
同窓生はじめ、クラブ・同好会など関係者お誘い合せのうえ、多数のご参加をお待ちしています。

記

### ○ 京都工芸繊維大学同窓会 平成24年度定期総会

日 時 平成24年6月30日(土) 午後4時から

場 所 新・都ホテル 本館 BF 階 「末広の間」  
京都市南区西九条院町17 電話075-661-7111

議 案

1. 会則の一部改正
2. 人事
3. 平成23年度事業報告
4. 平成23年度決算報告
5. 平成23年度会計監査報告
6. 平成24年度事業計画案
7. 平成24年度予算案
8. その他

報告事項 理事会報告

### ○ 京都工芸繊維大学同窓会恒例の懇親会を下記により開催します。

記

日 時 平成24年6月30日(土) 午後6時から

場 所 新・都ホテル 本館 BF 階 「陽明殿」(西)

会 費 10,000円(ただし、学生会員は3,000円を当日受付にてお支払いください。)

〈参加申込みについて〉

総会、懇親会への多数の参加をお待ちしております。

参加される方は、別添郵便はがき(会員データ記入票の下部)の「出席」に○印をお付けの上、  
6月15日(金)までに必着するように投函をお願いします。

## KITの絆



京都工芸繊維大学同窓会  
会長 **本城 博一**  
(建築科 昭和23年卒)

京都工芸繊維大学(KIT)同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素はKIT同窓会の運営と発展に格段のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、KIT同窓会も平成19年に呱呱の声をあげてから満5年を経過致しました。KIT同窓会の生みの親でもある江島学長をはじめ、大学当局、同窓生の皆様の暖かいお力添えにより漸く幼年期から少年期へと、歩を進めることが出来ました。そしてKIT同窓会の事務局も大学当局のご配慮でKITビューローの皆様の応援をいただき、スタッフを充実致しました。また、本年3月には、大学組織の大改革以来3度目の新しい会員を迎えることとなり、この新しい息吹を今後の糧とし、新設の同窓会館を活動の拠点として、全力をあげて会の活性化に努める所存です。

ここで、平成23年度に実施致しました主な事業活動を紹介いたします。

### ◎京都工芸繊維大学とKIT同窓会の地域交流会の開催

江島学長の肝入りで、今まで疎遠がちであった各地域との交流会を大学当局と共同で下記のスケジュールにより実施致しました。

#### 2011年地域交流会のスケジュール

開催地	開催日	地域名	開催地	開催日	地域名
熊本市	10. 8(土)	九州	松山市	11. 2(水)	四国
大阪市	10. 12(水)	関西	岐阜市	11. 19(土)	岐阜
東京都	10. 21(金)	関東	名古屋市	12. 3(土)	東海

大学側からは、学長、副学長、事務局総勢10数名が参加致しました。この地域交流会では新しい出会いと発見があり、そこで同窓会の絆の大切さを、痛感することができ、延べ190人の

方々の参加があり実り多い集いとなりました。

交流会で、江島学長から今まで蓄積してきた知的財産や現在進行中の教育研究活動の成果や状況、将来像について数多くの資料と共に纏々説明されました。

KIT同窓会側からは、現在各地域が旧京都工大会・衣笠同窓会の2つに分かれて運営されており、KIT同窓会としては出来得る限り早急に統合一本化し、新しいKIT同窓会の地域支部として、活発な支部活動を実施していただくようお願いいたしました。

### ◎KIT同窓会学術講演会の開催

今回は、元大蔵大臣の武村正義氏を講師としてお招きし『この国はどこへ行くのか』という演題で講演をしていただきました。大海に彷徨える日本丸の行く末について大変興味深く、示唆に富んだお話で誠に時宜に合った内容でした。

### ◎KIT同窓会誌 No.6の発行事業

同窓会誌 No.6の発行に当り5年間続いた表紙のデザインを一新して、そのデザインを本学デザイン学部門の西村雅信准教授に依頼し、それと共に新しい会誌の愛称を『工織』と命名致しました。この愛称は工芸と繊維の両部門が堅固な団結と協調により未来に向けて、より一層躍進することを祈念するものです。

以上が平成23年度に実施致しました主な事業活動ですが、特にその中で地域交流会の開催により、KIT同窓会が目ざす本部と支部との密接な連携による情報交換と会員相互の親睦と交流に新しい第一歩を踏み出すことが出来ました。

今回の交流会について、江島学長によって点じられた『KITの絆』という灯火を、今後我々の手によって、より大きくより長く掲げ続けることにより、KIT同窓会の未来の栄光につながることを心に念じてご挨拶と致します。

# 学長就任のご挨拶

京都工芸繊維大学

学長 古山 正雄



今年の4月、学長に任命された古山正雄です。平成16年の法人化以降、前任者の江島学長のもとで理事・副学長を務めてきた経験を活かし、本学の栄えある伝統に新たな1頁を加えるべく努力してまいる所存です。何卒よろしくお願い致します。

ところで、引き継ぎ作業中に江島先生が、学長は駅伝ランナーのようなものですね、と仰ったことが印象的でした。京都工芸繊維大学のタスキを胸に、多くの方々の声援を受け、100年以上の長大な歴史の一駒を精いっぱい駆け抜けること。実際には、ランナーは孤独であり、時々刻々と風向きは変わり、困難な課題の解決には身体的苦痛を伴い、財源が必要となることなどを実感する毎日です。とりわけ、大学にとっての最大の資産は人的資源であり、絆の構築の大切さを痛感しています。その中から、学内でも話す機会の多い三つの事項についてご紹介し、同窓生の皆様にも共感して頂ければ幸甚です。

## 1 勝利が染みついた人間になれ。

言い換えれば、成功体験の大切さです。いま京都工芸繊維大学に最も必要なことは、色々な分野や領域において成功体験を蓄積し共有することです。教育、研究、管理運営の各職場において、一つでも多くの成功体験を蓄積すること。このためには、過去の栄光にしがみつくのではなく、新たな挑戦を繰り返す必要があり、常に勝ち続ける人間を一人でも多く育成することが求められています。同窓生並びに同窓会に期待するのも、社会競争に打ち勝った巨人を輩出して頂くことです。まずは母校における様々な活動や同窓生の活躍を互いに共有することにより、母校に対する誇りと卒業生相互の敬愛の情を醸成することから始めるべきだと考えています。

## 2 京都工芸繊維大学を愛せよ。

私たちは、愛することを学ばなければならない時代、愛することを学習すべき時代に生きています。親子においても、兄弟においても、本能のままに情愛が発生し、困難に打ち勝つ元気を与えてくれるとは言えない時代です。大学に対しても、母校を愛することは自然の情であり、全ての関係者は母校愛を持っているはずだ、ということを前提にすべき時代ではなくなっています。しかしながら、それでもなお母校への愛がなければ何も始まらないし、何も生まれないと思います。我々の活動の源泉は、京都工芸繊維大学への愛であり、大競争時代を生き抜くための特効薬も母校愛からしか生まれなことを強調しておきたいと思います。

## 3 学生は国の宝である。

学生は我々の後継者です。その意味でも愛すべき存在です。ましてや京都工芸繊維大学の学生は特別であり、それぞれに同じ研究室の後輩は文句なしにかわいい。卒業生もまた京都工芸繊維大学にとっての宝物です。とはいえ宝物は磨かなければ光らないし、磨き続けなければすぐにさびつくものです。ときには実際に母校を訪れ、研究室の後輩と話し、美術工芸資料館や学生食堂、図書館を覗いてください。ホームページだけでなく、最近の大学の変化を実際に体験してください。

昨今の国立大学が置かれた状況を考えると、卒業生の方々の力を借りる場面もこれまで以上に増すものと思われます。例えば共同研究や受託研究といった仕事上の付き合いも増えるでしょう。更に、教育の面でも企業と連携して人材育成を図るべき時代に来ていると考えています。そして本学の名を高からしめるための広報活動においても、同窓生のご尽力が必要です。これからも、同窓会並びに卒業生各位のご協力をよろしくお願い致します。

## 学長退任のご挨拶

京都工芸繊維大学

前学長 江島 義道



### 学長在任中のご支援とご厚誼に感謝

同窓会会員の皆様には、学長在任中に賜ったご支援とご協力に対して心から感謝申し上げます。

着任した平成16年4月は、国立大学が法人格を持ち、それぞれが独自の組織として船出した時であります。法人化への変革は、資源の新しい投入のない再配分方式の改革で、改変のための人的・財政的負担は甚大でした。しかも、法人化とともに、運営費交付金(政府からの支援金)が効率化係数や経営改善係数の名のもとに継続的に削減され、また、人件費も継続的に削減される仕組みを持つ財政的には極めて厳しい中での変革でした。

本学は、このような厳しい財政状況ではありましたが、「実学志向」・「最先端科学技術志向」・「芸術や感性への志向」という特色を堅持しつつ、激変する時代の要請に柔軟に対応し、21世紀の新たなニーズに応えることのできる教育研究体制を整え、大学の基盤強化に全力で努めてきました。この間、次のような事業を実施しましたが、これらは大学のさらなる発展の礎になると確信しているものです。

- 1) 国立大学法人への移行
- 2) 京都工芸繊維大学の理念の制定
- 3) 理念をビジュアル化したシンボルマークの制定
- 4) KIT 基金制度の創設
- 5) 学部組織の改組再編
- 6) 繊維科学センターの設置
- 7) ものづくり教育研究支援センターの設置
- 8) 昆虫バイオメディカル教育研究センターの設置
- 9) 伝統みらい教育研究センターの設置
- 10) 大学院(博士前期・後期課程)バイオベースマテリアル学専攻の設置
- 11) 創立60周年(開学110周年)記念事業の実施
- 12) 京都市・京丹後市と連携協定締結
- 13) 京都府立医科大学・京都府立大学と連携協定締結
- 14) ヘルスサイエンス系の教育・研究に関する四大学(本学、京都府立医科大学・京都府立大学、京都薬科大学)の連携に関する協定締結
- 15) 京都ノートルダム女子大学と連携協定締結
- 16) 教育研究等施設の改修・新築
  - ①学道会館の新築(嵯峨キャンパス)
  - ②KIT ハウス(学生食堂等)の新築
  - ③60周年記念館の新築
  - ④プラザKIT の新築
  - ⑤同窓会パビリオンの新築

③60周年記念館の新築

④プラザKIT の新築

⑤同窓会パビリオンの新築

このような事業がスムーズにできたことは、ひとえに文部科学省の支援をはじめ、本学の教職員、同窓会会員など本学関係者の支援と協力のお陰で、同窓会の皆様には、心から感謝いたします。

また、同窓会組織に関しては、京都工大会と衣笠同窓会の幹部の方々のご理解と尽力によって、新たに「京都工芸繊維大学同窓会」を立ち上げ、平成22年4月には、工芸科学部第1期卒業生を暖かく迎えていただきました。

さらに、この新しい「京都工芸繊維大学同窓会」には、「京都工大会」と「衣笠同窓会」の同窓会会員も参加していただき、「京都工芸繊維大学同窓会」を京都工芸繊維大学全体の同窓会としての組織にさせていただきました。歴代の京都工大会理事長様と衣笠同窓会会長様をはじめ、同窓会会員の皆様には、大所高所からの誠に懐の深いご配慮とご英断に心から敬意と感謝を申し上げる次第です。

本学の卒業生は、これによって、全員が一つの傘のもとに広く交流することが可能になり、また、これから卒業していく学生にとっては、誠に頼もしい先輩を持てるようになりました。

大学としても、このような同窓会の交流の広がりと呼応して、昨年は、同窓会と大学の交流を広げ深めることを目的に、各地域で、「京都工芸繊維大学教育研究地域交流会」を開催させていただきました。京都工芸繊維大学同窓会及び各地の同窓会の幹部の方々の熱いご協力を得て、内容の濃い交流会を、東京、名古屋、岐阜、大阪、松山、熊本の6箇所で開催させていただきました(急用のため岐阜は欠席)。交流会では、講演会、大学の近況報告に加えて、意見交換会を行いました。地域交流会が、大学の新たな活性化に大きく貢献するだけでなく、地域の同窓会相互の交流にも役立つためには、これからも継続することが必要であると思われました。

本学教職員は、輝かしい大学の未来を切り拓くため、日夜、努力しているところです。

皆様には、今後も絶大なご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、同窓会会員の益々のご活躍とご発展を祈念するとともに、学長在任中のご支援とご厚誼に心から感謝し、退任の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

## 就任ご挨拶

京都工芸繊維大学  
理事・事務局長

山下 馨



昨年9月に理事・事務局長に就任した山下馨です。京都工芸繊維大学同窓会の皆様に、就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

私は、かつて昭和54年4月から3年の間、本学に勤め、その後文部省(現在の文科省)に異動、本学で仕事をするのは、29年ぶり2度目となります。文科省では、主として人事関係行政に携わり、高等教育行政、文化行政等を経験した外、5年間国立大学の事務系管理職として勤務しました。この間、行政・立法・司法との関係など多くを学びましたが、とりわけ、直近の10年間では、独立行政法人の創設や国立大学の法人化に制度化面から深く関わったことが記憶に鮮明です。

我が国は多くの難題を抱えています。今後我が国は数々の危機的状況に如何に立ち向かい、どのように克服してゆくのか、全ては、“人材”に懸かっていると思います。我が国の唯一の資源ともいえる人材。知の拠点たる国立大学には、本来の使命である次世代を担う優れた人材の育成機関として、その在り方を含め、自らの責務を自覚し、国民の負託にこたえていくことが求められています。昨年6月、国立大学協会は東日本大震災を契機に、国立大学の機能強化を国民に約束しました。全ての国立大学はそれぞれ存在理由を鮮明にし、特色となるべき方向性を見誤ることなく、機能強化を果たしていかなければならないのです。

本学も、その成立経緯から、地域貢献に始まる実学的教育研究活動をより一層全国化、国際化して地域に発するという方向を見誤ることなく、特色ある学問を創っていき、優秀で逞しい、頼むに足る人材を育成することに全力を傾けてゆく必要があると思います。

本職への就任は、私にとってこれまで培ってきた知識や経験を活かす千載一遇の機会であり、本学の発展に全力を尽くして参りますので、京都工芸繊維大学同窓会の皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

## 退職教員挨拶

### 定年退職にあたって

伊倉 宏司

(応用生物学部門)



本学は、松ヶ崎と嵯峨にキャンパスをもつ。去り行く者がいまだく名残り惜しさであろうか、それらのキャンパスが美しく思えるようになってきた。初夏の頃、センターホールの裏手から美術資料館の南側と西側にかけて並び立つケヤキの樹々は、明るくまぶしい空に向かって思い切り枝を伸ばす。出揃った新緑の葉は、風に揺れ動く天蓋をつくり、その下を歩く者に清涼な空間をもたらしてくれる。樹下に寄せ植えされたツツジたちも鮮やかな色の花をつけて、新緑の小路に彩を添える。私は、この季節、ここを通るたびに、爽快な気分を満たされた。嵯峨キャンパスの南門あたりに立ち、圃場とその周囲を見渡す時、何とも心癒される思いがする。緑葉に包まれ整然と並んだ桑の低木は、植物が持つ生命力とともに心の安らぎを感じさせてくれた。北側の背後に立つ曲線優美な低い山並みとその裾に広がる水面静かな池が作り出す風景は、古の大宮人たちが、花鳥風月を愛でた舞台を髣髴とさせ、平安の時代に思いを誘う。嵯峨という雅な地にあるこのキャンパスが、国際的工科系大学を標榜する本学の個性を輝かす場として活用されることを願うものである。

世界は知の大競争時代を迎えた。科学技術立国を国是とするわが国では、近年、大学に多岐にわたる社会的役割を期待している。大学が果たすべき多くの役割の基盤を成すものは、紛れもなく「教育と研究」である。「教育と研究」が磐石でない大学は、いかなる役割をも十分に果たし得ないであろう。本学は、「教育と研究」に係る独自の理念を世の中に向けて高らかに謳いあげている。大学の教育理念に基づきそれぞれの専門課程が掲げた教育目標を達成するための教育システムを、名実ともに完成していただきたい。研究では、教員各位が取り組むサイエンスや技術開発において、世界に冠たる成果を挙げ、ノーベル賞やそれに並ぶ栄誉を勝ち取っていただきたい。本学は、それらの願いを実現できる大学であると思っている。

本学に奉職できたことを感謝し、お世話になった多くの方々に心よりお礼を申し上げます。だいである。

## 定年退職挨拶



板谷 明  
(高分子機能工学部門)

1984(S59)年10月に繊維学部高分子学科に赴任して以来、この松ヶ崎キャンパスで27.5年間を過ごしました。山口大学助手に採用されて以来、定年までの40年間にわたり教育・研究に携わってきましたが、その3/4近くを京都工芸繊維大学で過ごしたことになります。前任校では化学工学科、本学では高分子学科という、どちらもプロパーではないにもかかわらず、異端者を抱え込んでいただき、ともかく無事に勤め上げることができました。この機会をお借りして、長い間お世話になったことを含め、心より御礼を申し上げます。

山口大学では新設の講座、こちらに赴任してきた時も高分子学科への改組に伴う新設の講座、そして繊維南棟から一号館へと、新しい部屋への移動を3回も経験しました。研究室や学生実験の立ち上げは、研究にとってはロスにはなりませんが、工作好き、もの作り好きの自分にとっては楽しい時間でした。自作の蛍燐光分光光度計、自作の窒素ガスレーザーを用いた光電導性高分子の光物理過程やその電荷生成・移動過程の研究からスタートし、最近では、単一分子蛍光分光法の利用、レーザーアブレーションやそれを用いた有機化合物のナノ粒子化など光に関連した研究をしてきました。こちらへの転任の少し前に、化学工学によりプロパーで少しは専門に近いと、光反応工学分野の酸化チタンを用いた水中フェノールの光酸化分解反応の研究を短期間行いました。その2報の論文(1985)が、酸化チタン光触媒の展開と共に、多くの論文に引用(現在 Citation Index : 544と306)されていることを、その分野から遠ざかってだいぶ後になって知りました。このような、目立たないが落ち着いた基礎研究の重要性はいつの時代にもあるものと思います。

大変厳しい競争時代ですが、松ヶ崎がますます発展し、同窓会の皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

## 退職にあたって



黒田 裕久  
(生体分子工学部門)

平成8年本学に奉職して以来、16年の長きにわたり研究・教育を無事全う出来たのも、ひとえに本学教員・職員・学生の皆様に支えていただいた賜物であったことを実感する。

特に“知的興味”という極めて理想主義的・プラトン主義的な顔も持つ“学問”の領域で、常に若い学生諸君と接することを可能にしてくれた大学という組織に身を置くことが出来た幸運には感謝するばかりである。

また如何なる分野にせよ“学”と名のつくものの活動が社会への具体的・直接的関与という形で求められ、大学と職業訓練所の区別がますます曖昧になりつつある今日、大学の教育・研究・管理運営といったともすれば相反する要求も生じかねない側面間の諸問題を多くの試行錯誤を重ねつつも解決・克服してきた本学の誠実な努力に敬意を表すと共に、個人的にはその一端にでも関わることができたことにも感謝したい。

ただ、そういった感慨の中で、平成24年というこの時期に退職となること自体には多少の幸運を感じざるを得ないことも、いささか複雑な気持ちではあるが、正直に述べておきたいと思う。

私は、単純な多数決にのみ依存する大学の自治といったものが、ともすれば衆愚的な結果に陥る可能性があることを否定する者ではない。たとえ少数であっても大学という学究組織に縛られないより広い立場からの見解に意義がありえることも認める者である。しかし、これは衆愚的な誤りと寡頭的な誤りの可能性を慎重に比較・評価した上でその妥当性・正当性を見極めるという努力なしに、単なる手続論によって事を決して良いということの意味しているものであるとは私には思えない。その点で昨年末から本年にかけての本学の動きには極めて残念なものがあつたように思うと共に、そういった事態の下にある本学と公的に一定の距離をおくことが出来ることには、多少の幸運も感じざるを得ないというのが率直な思いではある。



## 定年退職にあたり

### 志波 康博

(教理・自然部門)



本学を含めて10の大学に籍を置き研究を続けてきた。とくに初めの6年半は、アメリカのあちこちの大学を渡り歩いて、大学院生そして研究者としての生活を食いつないできた。少しとはいえ物理学を勉強したぼくのような凡庸な者にとって、そのときに出会って身近に接した超一流の物理学者たちの生活ぶりは、その後の多くの研究・教育者としての生き方に大事な視点を与えたと思っている。幸い、同じ視点をもつ(少数ながら)すぐれた物理学者は日本にもいる。

教育において、とくに必修科目や試験という大学のありがたい装置を使って、ぼくが大事にしてきた視点は次のようなものである。教育、とくに物理教育は、個々の事象の知識を与えたり、通念としてのイメージを与えることではない。自らのイメージを構築しようとする意欲をもたせることである(今井功)。したがって、珍しい現象を見て無心に「なぜ」と思うだけはいけない。「こうなるはずだが、そうならないのはなぜ?」という疑問でなければいけない(江沢洋)。そして、そのような問いかけの腕力は、自らの手と頭を使った努力なしには絶対に身に付けられないものなのだ。卒業生あるいは在学生で、ぼくの授業や指導を受けた諸君のなかに、このことに頷いてくれる者が少なからずいることを信じている。

ところで、ぼくが大学に入学したころはその大学の総長から、「太ったブタより、やせたソクラテスになれ」と言われたけれど、いまではわが大学の学長から、やせたソクラテスよりは太ったソクラテスに、と急かされるようになった。そして、太るためにはよそからの資金を云々、とまで。管理職にある教員は、また大学を実質的、生産的に支えている(これは、マネジメントでは Dilbert principle と呼ばれている法則)平教員も、じぶんはなぜ研究者あるいは教育者の道を選んだのか、ということは今一度思い出していただきたい。初心忘るべからず、である。清貧な学者が独創的な研究をすることは可能なのだ。

前述のような流れに棹さすことのない本学の将来像を祈念しつつ、そして直接間接にお世話になった方々に感謝しつつ挨拶に代えたい。

## 定年退職にあたって

### 杉村 順夫

(応用生物学部門)



1995年に本学に採用されて以来16年の間、諸先生と職員の方に助けられて、そして学生諸君に出会い、多くのことを学び、経験することができました。退職にあたり、これら皆様に心から感謝いたします。

1995年は阪神・淡路大震災があり、昨年は東日本大震災が起こりました。この2つの大震災の間に在職したことになります。この期間には、大学改革が進展し、大学の在り方が大きく変わりました。また、私の研究を支える植物バイオ技術が飛躍的に発展した時期でした。これらの激しい動きにより、教育・研究活動が大いに刺激されました。研究対象とした分野は工業用原料植物であり、油料植物、繊維植物、香料植物、飼料植物、薬用植物などであり、種々の産業で原料となる物質を生産する植物です。この有用物質生産機能の解析と改変を中核テーマとして取り上げてきました。これらの多くは熱帯地方に分布する植物であり、本邦での認知度は低く、未開発資源植物です。これら植物の新しい個性を発掘し、さらにその個性を伸ばすことでした。この植物との対話研究を共に推進し、同じ時間を共有してくれた卒業生にとって、問題発掘や問題解決能力が少しでも磨かれた時間であったならば、教員としてこの上ない喜びです。私の力量不足により、無駄な時間を過ごさせたことになっていないことを祈るばかりです。

工業用原料植物の研究は、植物原料の利用・加工に関わる工学と製品開発を見据えたものでなければなりません。すなわち、植物科学と工学との連携研究が必要です。幸いにも本学には特長ある研究分野があり、川上から川下にいたる統合的な新しい研究を推進できる環境にありました。異分野の先生方との交流を通じて、新しい視点から工業用原料植物にアプローチできたことは当方にとって貴重な成果でした。「人間と自然の調和」に向かって、本学が益々発展することを祈念いたします。

## 出会いに導かれて



### 角田 素行

(生物資源フィールド科学教育研究センター)

1979年4月1日から、カイコを用いて酵素と発育に関する研究を始め、3つの成果を得ました。1)シルクタンパク質をつくる絹糸腺細胞はシルク分解酵素をつくり、幼虫の各眠期にシルクタンパク質を完全に分解し、次の幼虫期にシルクタンパク質をあらたにつくる準備をする、2)クワの葉のショ糖量は日照、降水により変動する、ショ糖はカイコの腸のショ糖分解酵素活性を抑制する、カイコはショ糖を通じて環境情報を腸で感知してこれに反応する、3)カイコの腸のタンパク質分解の調節は、消化液中のカリウムイオンがタンパク質分解酵素の活性を支配することによってなされる。2つ目の成果が得られたのは、本学で開発されたカイコの無菌人工飼料育システムのおかげです。

研究の契機は人々との出会いでした。江口正治先生、林屋慶三先生、山本有彦先生、松原藤好先生、赤井弘先生、故茅野春雄先生、アリゾナ大学の John H. Law 先生、故 Michael A. Wells 先生、ユトレヒト大学の Dick J. van der Horst 先生、アリゾナ大学の博士研究員、そして本学でともに研究した学生、大学院生から研究を行う上で必要な多くの枠組みをいただきました。それらを組み合わせて研究課題をつくり挑戦しました。カイコの命のしくみの一端をつかまえられた時の達成感は、なにものにも代え難いものでした。

研究の応用は1)医学、薬学に応用できる遺伝子組み換えタンパク質をカイコのマユのシルクタンパク質中に高効率で発現させる、2)食べるものが変われば体をつくるタンパク質組成が変わる、3)生物が多量にもつ物質の生理学的意義の再発見でしょうか。皆様からいただきましたご厚情に感謝します。本学のますますの発展を祈ります。

## 定年退職挨拶



### 高倉 章雄

(機械システム工学部門)

今年3月末日で、定年退職することになりました。昭和41年4月に当時の工芸学部事務に採用され、その後、昭和46年4月に工芸学部生産機械工学科(現在：機械システム工学部門)に配属されて以来ずっと塑性加工研究室でお世話になりました。この間、多くの諸先輩・教職員・学生の皆様方に出会い、沢山のことを体験するとともに教授していただきました。ここに、無事に定年を迎えることができましたのも、ひとえに皆様方の御陰と心から感謝しております。

赴任当時、松ヶ崎の地には工芸学部(西部構内)のみがあり、大学の周辺はほとんど畑と田んぼで、また構内の周りには銀杏の大木が立ち並ぶ静かな長閑なキャンパスでした。交通の便は悪く市電(高木町)とバスのみで、来学された他大学の先生が京都駅からバスで1時間以上もかかる何と不便な場所だと言っていたのを思い出します。現在では、地下鉄や北山通りが開通し、大学も新しい施設がどんどん建設され、当時の面影は3、4、5号館、3号館前のツツジのロータリとわずかな銀杏並木のみになっています。

塑性加工研究室では、福田正成先生や山口克彦先生の指導の下に金属板の成形技術開発の研究に携わってきました。コンピュータが発達するにつれて数値解析的研究が活発になり、加工技術(ものづくり)の開発研究が斜陽になる時代もありましたが、最近ではものづくりが注目され、嬉しく思っています。ものづくり関係の研究をしていたおかげで、平成18年から4年間ものづくり教育研究支援センター長を務めさせていただき、これをきっかけに学外でのものづくり関連の委員も務めさせていただいています。

最後に、長年お世話になりました京都工芸繊維大学に感謝するとともに、大学の益々の発展をお祈りします。

## 退職のご挨拶

### 巽 二郎

(生物資源フィールド科学教育研究センター)



生物資源フィールド科学教育研究センター(以後、農場)にお世話になって足かけ8年となる。神戸大学、名古屋大学と転籍し、また私の郷里は大阪であるが、それらと比べると京都はもっとも親密に自然環境と接したまちだと思う。農場が町並みの外れにあるということもあってことさらこの観が強い。研究室から愛宕山の裾につらなる遍照寺山や小倉山のゆるやかな稜線が見える。敷地のすぐ北側は山裾まで里山風景が広がる。ここは京都市の「歴史的風土特別保存地区」に指定されている。有栖川が大覚寺大沢の池やさらに上流の観空寺谷の水を集めて農場内を流れる。農場の敷地は有栖川の扇状地の一部であり、肥沃ではないが水はけ良く作物の栽培に適している。

先年、果樹園横の有栖川の土手上から草に埋もれた江戸時代の古い石碑が見つかった。近くの寺に引き取ってもらい供養していただいた。ここは京都高等蚕糸専門学校時代に実験実習桑園として大正10年(1922)にもうけられ、90年を経過するらしいが、なぜ今これが見つかったのか謎である。これ以降、果樹の実りが良い。

さて私の専門は農学であり、資源植物の栽培学である。研究圃場が身近にある恵まれた場所で明るく素直な学生達と過ごせたことを感謝する。松ヶ崎から離れたこの研究室をわざわざ選んでゼミに参加する学生達は自然が好きである。土を触り作物を育て、研究に打ち込む学生の生き生きとした顔が忘れがたい。実習授業では生物生産の理論と技術を教えるのだが、自然の教育力の偉大さに圧倒される思いである。

規模の大きな大学にはカンバン授業以外に教育効率の悪い(としばしば陰口をたたかれる)「すきま」メニューが存在し、それが幅広い器量をもった多様な人材を育成する潜在力でもあるといわれている。本学は規模の小さな大学で、しかもいわゆる「工科系大学」であるにもかかわらず、自然豊かな環境教育の場を残している。これはめずらしいことであり、先人の努力と慧眼に敬服する。本学の今後の発展に期待するところ大である。

## 退職挨拶

### 知念良教

(保健管理センター)



私は1996年保健管理センターに着任し、今年(2012年)3月に定年退職いたします。約20年勤めたこととなります。始め仕事(医療、カウンセリング、講義)に対する不安もありましたが、大過なく職務を果たしてきたのではないかと考えています。この事、嬉しく思っています。しかし、すべて皆様の御協力、ご鞭撻があればこそであります。誠にありがとうございました。

退職を控えて一文を書かせていただきますが、退屈な文章は書きたくありませんので、あの有名な元禄赤穂事件、ご存知「赤穂浪士討ち入り」から人口に膾炙している3首を借用し、大胆に解釈して、現在の心情を簡潔にまとめてみようと思います。

「風さそふ花よりもなほ我はまた 春の名残をいかにとやせん」浅野内匠頭。人生の一大転換期・定年を控えて、これまでどうであったか、これからどうするのかという不安・焦燥・迷い・未練が余すところなく表現されている。

「あら楽し思ひは晴るる身は捨つる 浮世の月にかかる雲なし」大石内蔵助。大事を成し遂げた人のみがついに至れる境地である。私自身はどうかと問われれば、私なりに確かに努力はしたのであるが、もとより浅学非才で、診療・カウンセリング、研究、教育といずれをとっても生煮えで、中途半端で、不完全燃焼であったと言わざるを得ない。多くの皆様にご迷惑をおかけしたのではないかと危惧反省しております。

「年の瀬や水の流れと人の身は 明日待たるゝその宝船」大高源吾・宝井其角。定年後の第2の人生をどうするか、これは確かに大問題ではあるが、趣味、その他を充実させるための自由な時間を得ることが出来る、とプラス思考で前向きに考えたい。

最後になりましたが、皆様のご健康と本学の益々の発展を祈念いたします。長い間お世話になりました。ありがとうございました。

## 退職挨拶



日向 進  
(建築造形学部門)

いよいよ「卒論」の提出時期になりました。以下、自分史風に。

大学進学にあたって建築を学びたいと思いましたが、難問がありました。大学では卒業論文を書かなければならないということです。小学生のころから作文がとにかく苦手でしたので、進学先として卒業論文を書かなくてもよいところを必死でさがしました。当時、本学建築工芸学科では卒業に際して設計が課せられ、論文は認められていませんでした。これが決め手となりました。さてさて、見通しが甘かったことはいうまでもありません。

学部2回生のとき、スペイン旅行帰りの先輩からスライドを見せてもらいました。いま思い返すとそれはガウディの作品だったのですが、けったいな建築やな、でもそのような建築をつくってきたスペインの建築の歴史はおもしろいに違いないと、スペインの建築史を学ぶことを目的に進学しました。そして、すでにどこかに書いているのですが、民家調査の手伝いをしていたとき、ある町家の坪庭をみたことがきっかけとなって京都の町家の魅力にとりつかれ、日本の建築史という世界に迷い込んでしまいました。

設計を志向する学生が多いことが本学の建築分野の大きな特性です。授業を担当するようになってからは、建築史の役割は、自らは言葉を発しない建築という相手と対話しそのおもいのできるかぎり深く読み解く術をわがものにするところにある、と心がけてきました。まだまだ珍粉漢ですが。

苦手意識が抜けないままおそろおそろ修士論文を提出したとき、恩師中村昌生先生からいみじくも「君が卒業できるとは信じられん」という一言をいただきました。1966年の入学以来、途中約5年間の遊学をはさんで、通算41年の間、松ヶ崎に在籍しましたが、ここに「卒業」させていただきます。長い間、本当にありがとうございました。

## 産と学の連携



山田 保治  
(創造連携センター)

平成19年10月に本学に赴任して早4年半が過ぎ、本年3月末で退職することになりました。京都は学生時代とともに人生の出発点となった地であり、赴任時は34年ぶりの京都に感慨深いものがありました。平成12年に名古屋で大学に戻るまで、企業で大半を研究に従事し、大阪、御殿場、北九州、ニューヨーク、東京と転勤しましたが、歴史と伝統の地であり、また私にとって思い出の地である京都で最後の研究生生活を送れたことは幸せでした。

企業では、オレフィン重合触媒や新規な機能性高分子材料の開発研究を、大学では、機能性高分子材料の研究を行い、これらの研究の中のいくつかが事業化されたことに何よりも喜びを覚えます。また大学では、産と学の連携推進を図りながら、ライフワークとなった新規な高性能材料研究を若い学生たちや企業からの研究員とともに行えたことを喜んでいきます。企業(産)での研究は、どちらかといえば Needs-oriented な開発研究で成果主義的な側面が強く、これに対して、大学(学)での研究は、Seeds-oriented な学術的研究であり、その価値観は大きく異なるものでした。

日本の産学連携活動は、約15年程前に社会の要請を受ける形で本格的に始まり、TLO 活動と連携してそれなりの成果と進展をしてきました。今日では多くの大学が、いろいろな工夫と多種多様な取り組みのもとに活動し、産学連携活動が社会に定着してきたように思います。しかし今日、多くの関係者の間で従来の活動の停滞と変化を期待する声が大きく叫ばれるようになって来ました。産にも学にも喜ばれる実りある連携は、時代の要請と変化に適応した活動であり、産の Needs と学の Seeds、テーマや目標の設定、研究者のマッチングが何よりも重要であると思います。今後、大学が多種多様な知的資産を活用した地域社会の核として、社会や産業の発展に貢献していける組織となることを期待し、産と学に身を置いた一人として、地道にその支援を続けて行きたいと思っています。

最後に、本学が長い伝統と実績をさらに発展させ、古都京都の地でアイデンティティーを持った特色ある大学としてさらに飛躍することを念じて筆を置きたいと思います。

# 知 足



## 山 本 雅 敏

(ショウジョウバエ遺伝資源センター)

幼少の頃から気の弱い性格であった。祖母が、仏間の狭い所で、黙るときなよ、と言いつつ手の中に押し込んでくれた年に一度か二度の小遣いを、それは何だと聞かれた時に、押し黙って説明が出来なかった。祖母の気持ちを理解出来ないまでも、はっきりと貰ったものだと言えない気遣いをしてしまうのだった。しかし、その頃どこにでもいたいじめっこにいじめられた記憶は無い。信じるころは頑として譲らない性格も併せ持っていたことが原因かもしれない。この性格は、変わることはなかった。

そんな私が、ショウジョウバエという小さな昆虫と偶然のめぐり合わせで出会った。弱々しい小昆虫が、繰り返し行う実験で高い再現性を示すことに感動し、遺伝学の研究にのめり込んだ。出会った先生方が素晴らしい方々であった。有頂天になってその虫と戯れる幸せを感じた。しかし、そのことに懸命になると、この大切な生物資源をどこかで守り続けなければならないという使命感が起こってきた。そのために、最も不得意とする「要求」と「交渉」をしなければならない。これまで最も辛い数年間を費やして、ショウジョウバエ遺伝資源センターの組織と施設が現実のものとなった。その後、多額の運営経費、事業費、教育研究経費、大型設備費を毎年の概算要求を通じて実現した。その背景には、ショウジョウバエの研究推進の基盤を整備して研究者支援を実現するんだという揺るぎのない思いが、弱い自分を支えてきた。

時は来て、大学を去る事になった。そんな時、センターに維持されている世界最大のショウジョウバエ遺伝資源を、それらは何のためにそこまでの規模でなければならなかったのか、と問われる事態になったように感じている。祖母の気持ちがわかるような歳になったことで、ショウジョウバエの研究環境に十分とは言えないまでも、これが私の出来る範囲での仕事だったのだと知り、お世話になった大学に深く感謝している。

# トピックス

## KIT 東京会設立 2012.1.6.

代表：市 野 要 助

(機械工芸学科 昭和43年卒)

2012.1.6. 東京霞が関ビル Sign 霞が関で、在首都圏の卒業生19名が集い、KIT 東京会の設立会合を開催しました。先ず、3.11. 東日本大震災で被災された方や物故者に対して1分間の黙祷をした後で、2時間にわたり旧知の仲間や新規の同窓生を順次紹介しあって、和気あいあい、時間の過ぎるのを忘れて、同窓の絆を深く結び、交歓会を盛り上げました。寄せ書きを書き上げ、次回、2013.1.11. 予定の会合を楽しみにして解散しました。

〈出席者順不同〉

代表：市野要助(cfipt087@wind.ocn.ne.jp)、

副代表：水垣親房(mizugaki@kbbiglobe.ne.jp)、

代表補佐：竹末俊昭、代表補佐：梅村馨、

幹事：林 佳輔(hk@tylaw.jp)、黒瀬雅志、

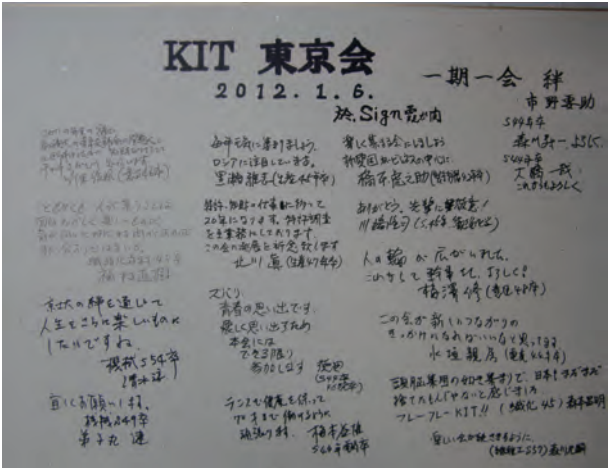
弟子丸健、森川元嗣、橋本虎之助、福村直樹、

北川 眞、梅澤 修、梅本益雄、森川寿一、

徳田莞司、大橋一哉、清水 淳、森本昌明、

川端隆司。

じつは、市野は父に死なれ、学費が続かず、2回生で退学する予定でした。昭和40年度国家公務員中級試験機械に合格し、大阪市法円坂の近畿通産局で面接後、勤める予定でした。夜のバイト、昼の学業の両立ができず、阿部哲三先生のフランス語を落とすような始末で、近畿通産局で働きながら大阪の夜学大学を卒業するつもりでしたが、中級合格後、好条件の家庭教師バイトに恵まれ、2つの奨学金と授業料免除、洛西寮の2段ベッド生活等で、資金に余裕が出来、KIT を卒業できました。KIT との縁、絆を感じております。



## ■ KIT 同窓会 定期総会及び懇親会報告

KIT 同窓会総務委員長 **森本一成**  
(電子工学科 昭和51年卒)

### KIT 同窓会 定期総会

平成23年6月25日(土)16時から約1時間30分、「ウエスティン都ホテル京都」西館3階「コスモスホール」において定期総会を開催し、出席者は本城博一会長外64名でした。

議事に先立ち議長に本城博一会長が選出され、本城会長から、東日本大震災に関するお見舞のこと、同窓会の沿革及び種々の協力依頼等の挨拶があり、次いで、古川敏一顧問からの挨拶がありました。

引き続き、総務委員長から、平成23年6月4日に開催されたKIT同窓会理事会の報告があり了承されました。

以上の報告の後、以下の議題について審議を行いました。

#### 1. 会則の一部改正(案)について

永久会員の定義に関する改正及び終身会費にかかる附則の改正案について、審議の結果、全会一致で承認されました。

#### 2. 役員を選出(案)：理事・専務理事について

平成23年3月の卒業生からの理事候補者5名(圓田安美氏、竹下智之氏、間島智子氏、小畑祐一氏、岩本美由紀氏)の理事の選出と辞退の



申し出があった3名(三井美佐氏、浅野公允氏、岸本博充氏)の理事の解職について、審議の結果、全会一致で承認されました。

次いで、上田正勝前専務理事の退職に伴う後任の専務理事の選出について、審議の結果、大学KITビューローに在籍の志賀均氏が、全会一致で承認されました。

#### 3. 平成22年度事業報告について

総務委員長から、配付資料(パンフレット)に基づき、報告があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

#### 4. 平成22年度決算報告について

中森伸行会計担当理事から、配付資料(パンフレット)に基づき、報告があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

#### 5. 平成22年度会計監査報告について

中森会計担当理事から、平成22年度収支決算書(案)及び平成22年度貸借対照表(案)について資料に基づき説明があった後、学外理事の福西興至監事から4月26日に西村太良監事と共に会計監査を行い、領収書、帳簿、預貯金通帳及び現金について、逐一照合し、精査した結果、異常は認められなかった旨の説明があり、審議の結果、平成22年度決算報告及び平成22年度会計監査報告について、全会一致で承認されました。

#### 6. 平成23年度事業計画(案)について

総務委員長から、以下に掲げる事項について、配付資料(パンフレット)に基づき説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

- (1) 理事会開催
- (2) 定期総会及び懇親会開催



- (3) 会則の一部改正：永久会員について
- (4) 役員選出：平成23年卒業生理事及び専務理事
- (5) 会誌第5号の発行(卒業生、在学生及び教職員に配布)
- (6) 会員名簿の維持管理：会員(約31,000名)データの有償管理
- (7) 同窓会ホームページの維持管理
- (8) 卒業記念品の贈呈：「学位記」証書ホルダー
- (9) 教育支援：「KIT 同窓会教育支援事業」
- (10) 学生行事の支援：松ヶ崎祭などの学生行事の支援
- (11) その他(総務委員会の開催)

## 7. 平成23年度予算(案)について

中森会計担当理事から、配付資料(パンフレット)に基づき説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

## 8. その他

総務委員長から、東日本大震災で間接的な被害にあった学生が5人おり、同窓会として見舞金を出すかどうかについて、総務委員会で検討したい旨の説明がありました。

最後に松原藤好顧問から閉会の挨拶がありました。

## KIT 同窓会 懇親会

ウェスティン都ホテル京都 西館2階「愛宕の間」において、平成23年6月25日(土)18時から



約2時間、KIT 同窓会懇親会を開催いたしました。出席者は約65名でした。

KIT 同窓会本城博一会長とKIT 同窓会古川敏一顧問から開会の挨拶がありました。続いてご来賓の方々の紹介(京都工芸繊維大学長江島義道様、元学長巽友正様、前学長木村光佑様、理事・副学長古山正雄様、理事・副学長竹永睦生様、理事・副学長林 哲介様、大学院工芸科学研究科長森迫清貴様、財務課調達検収室長小牧靖昌様、施設マネジメント課長梅澤和央様)がありました。

京都工芸繊維大学長江島義道様から来賓代表の祝辞があり、京都工芸繊維大学元学長巽友正様に乾杯のご発声をいただき、懇親会が始まりました。

会員各位の懐かしいお話を交え大変盛会の中で懇親会が進み、最後に、参加者全員で学歌斉唱を行い、三好明副会長の中締めのご挨拶で懇親会がお開きとなりました。



## KIT 同窓会 平成 22年度収支決算書

(一般会計)

自 平成22年 4月 1日  
至 平成23年 3月 31日 単位：円

収 入				支 出			
科 目	摘 要	予 算 額	決 算 額	科 目	摘 要	予 算 額	決 算 額
合 計				合 計			

理事（会計担当） 中森伸行<sup>㊞</sup>  
監事 西村太良<sup>㊞</sup>、監事 福西興至<sup>㊞</sup>

平成23年4月26日監査しましたが異常ありません。

## KIT 同窓会 平成 22年度貸借対照表

(一般会計)

平成23年 3月 31日現在 単位：円

借 方			貸 方		
科 目	摘 要	決 算 額	科 目	摘 要	決 算 額
合 計			合 計		

理事（会計担当） 中森伸行<sup>㊞</sup>  
監事 西村太良<sup>㊞</sup>、監事 福西興至<sup>㊞</sup>

平成23年4月26日監査いたしましたが異常ありません。

## KIT 同窓会 平成 23年度収支予算書

(一般会計)

自 平成23年 4月 1日  
至 平成24年 3月 31日 単位：円

収 入			支 出		
科 目	摘 要	予 算 額	科 目	摘 要	予 算 額
合 計			合 計		



## ■ KIT 同窓会 講演会開催報告

KIT 同窓会総務委員長 森本一成  
(電子工学科 昭和51年卒)

松ヶ崎祭期間中の平成23年11月20日に、在学生との交流を深めるための「KIT 同窓会講演会」を大学との共催で開催しました。講師には、日曜日の朝のテレビ番組「時事放談」に出演されている元大蔵大臣の武村正義氏にお願いしました。聴講者は、同窓会理事や学生さんと一般の方を含めて約100名でした。

武村氏は「この国はどこへ行くのか」という題目で、日本のおかれている現状を鋭く分析され、問題解決のための方策を提案されました。

具体的には、(1)漂流する日本、(2)様々な問題、(3)政治が役割を果たしていない、(4)どうすれば良いかの4項目でした。

(2)では、①経済成長は止まった、②人口減少が始まった、③財政は火の車だ、④個人主義が蔓延した、そして、⑤市場原理主義とグローバリズムが壁にぶつかった、の5点を指摘し、それぞれの詳しい説明がありました。「少し不便になっても希望のもてる国へ」ということで、ワークシェアリングやインカムシェアリングによる共助の国を提案されました。また、「老人は元気な間は働こう、そしてもっとお金を使おう」と指摘されました。また、武村氏は「量より質へ」、「中身で行こう」、「きらりと光る日本」等、希望の持てる日本をつくるためのキーワードをたくさん投げかけられました。1時間の講演終了後、時間を延長して活発な質疑応答がなされました。学生さんからは、安全保障、マスコミ報道、政治不信等についての質問があり、同窓会理事からは、国民が貯金の2割のお金を使えば、国の借金を何とかできるのではとの提案がありました。

講演会の後に懇親会の席を設けましたが、そのときに参加者の多くから、素晴らしい講演だったとか、質疑も充分あってとてもよかった等の声を頂きました。休日にも関わらず会場の照明機材等の操作をして頂いた職員の方々、並びに KIT ビューローの職員の方々の献身的なご協力に対し、心より感謝申し上げます。

なお、この講演を同窓会パビリオンでのみですが、パソコンで視聴できるようにさせて頂いています。



## ■ 被災学生への KIT 同窓会からの支援

### 東日本大震災による間接的被害を受けた学生に対する KIT 同窓会からの支援

本学では、東日本大震災に際し在学生の安否確認や実家の被害の有無等の状況把握を行いました。

その中で、東北地方に実家がある5名の学生について、父親の仕事が震災の影響で休業状態のもの、震災で家畜や家財道具に被害が出たもの、津波被害により農機具が使用不能で水田が海水に浸かって収入の見込みがないもの等がありました。

本人は不幸中の幸いで直接被災には至りませんでしたが、実家では経済的にも精神的にも想像を絶する被害を受けた状況でした。

そのため、KIT 同窓会では総務委員会で検討の上、東日本大震災による間接的被害を受けた学生に対する支援として、一人当たり3万円のお見舞金を本城博一会長から贈呈しましたことを、会員各位にご報告致します。

以下に、学生を代表して遠藤真菜美さんからのお礼の言葉をご紹介します。

先端ファイブ科学専攻 修士1回生  
遠藤 真菜美

先日は心温まるお心遣いをいただきまして、ありがとうございました。

父方の実家の被災ということで、住宅再建や農作業再開の目処は未だに立っておりませんが、がれきの撤去も終え、手探りではありますがこれから家族で力を合わせていこうとしている所存です。本当にありがとうございました。

(平成24年3月)



同窓会パビリオンにおいて、役員も立ち会っての贈呈。  
(平成23年7月)

## 被災地域への大学からの支援

### 宮城県の仮設住宅にて住環境改善支援活動を継続的に行う

六車直樹  
(造形工学専攻 修士2回生)

造形工学阪田研究室では、東日本大震災被災地での仮設住宅団地の住環境改善をテーマに、私たち学生が主体となったアクションリサーチ的な支援活動を行っています。活動主体は、現地 NPO 法人、先生ら建築専門家チーム、そして当研究室学生メンバーを含む学生コアスタッフで構成され、協力主体として現地支援団体や一般ボランティアが加わります。活動対象は非常に多く、宮城県気仙沼市の本吉地区に建設された全ての仮設住宅団地約500戸です。これは地区全体の仮設住宅住民への公平性を重んじた支援をしようとの考えからです。そのため、メンバーはそれぞれ数週間の滞在でシフトチェン



ジを繰り返しながら、現地での支援を続けました。

これまでの活動は、性能が劣る鉄骨プレファブ製の仮設住宅への冬の寒さ対策として、窓ガラス面への気泡緩衝材貼りや、窓へのプラスチック段ボール製の内障子の取り付け、外・内部ともむき出しの鉄骨柱へ配管用断熱粘着テープ貼りなどを行ってきました。こうした改善メニューは住民や一般ボランティアでも購入や施工が可能な内容・素材であることに留意しながら現地での試行錯誤の上たどり着いたものです。住戸内にお邪魔して作業を行うため、迷惑にならないようできる限り速やかに作業を行うことに気をつけていたはずが、「休憩しなさい」とお茶やお菓子をいただいたり、お話をしてくださったりと、非常に温かく受け入れていただき、ほっとするとともに、逆に励まされた次第です。

活動は、仮設住宅が解消されるまで研究室の後輩達にバトンタッチしながら続ける予定で、現在は、冬の改善メニューの効果検証、そして今後春から夏に向け、どのような支援が必要となるか、検討を進めているところです。



## 久保雅義

(デザイン経営工学部門 教授)

平成23年の夏被災地に入った。許可があり、東北2大学のお世話で、仮設住宅のQOL調査に行った。訪問先は、仙台、石巻、女川、陸前高田、大船渡。先ず、呆然とした。あまりの悲惨さに言葉がない。学生達は涙を浮かべ調査をしてまた泣いた。

報道では知らされていないのが、避難所での苦悩だ。毎日肉親や友を捜して遺体安置所を周り、何百柱の腐乱遺体のなかから僅かの手がかりで捜し続けた。体育館での固い床と冷たいお握りで多くの人が体調を崩した。仮設に入ったら、少しよくなったが、失業また失意。何時になったら心が休まるのか。

今回被災弱者に注目した。自分だけでは逃げられない、周りの支えで生き残れた方々の当惑と混乱は熾烈そのもの。福祉作業所で被災し助かったが、支えてくれていた両親が死亡。たったひとつ残ったのは、携帯電話。けど誰にも電話できない

「何をしたらいいですか?」「ここで見たことを伝えてくれたらいい。再開する時この海産物を買ってほしい。私たちは負けないから。」

はじめてわかったこと。仮設に電話が最近やっとついた。インターネットはダイヤルアップ。市街の携帯アンテナは流されたまま、携帯やインターネットが使えない社会なのだ。

訪問先で唯一安堵な気持ちになった地域があった。大豆沢という岬の先端の漁村の仮設。地盤が下がり道は浸水寸断。けどそこの人々には元気を貰った。個々には家族を亡くされたりしてるけど、コミュニティが支えあっている。



マンションの最上階まで津波 陸前高田



ビルが根こそぎ倒壊 女川

私たちが行くと、集会ゾーンに多くの住民が集まり歓待まで受けた。僅かの農地を活用して自給の野菜づくりや流されなかった方の備蓄食糧で生き残ってきた。自給自活で乗り越え、強固な絆をもつコミュニティになっていた。

私たちは、出来るだけ多くの人たちにこのことを伝えようと努めた。研究テーマとして、卒業研究として学生がまとめた。一部ネガティブな反応をした人もいた。私はそれがとても残念だった。自分は一生懸命生きている。震災などは関わりたくないという。

これを機に私は変わりたいと思う。UD(ユニバーサルデザイン)、サスティナブルデザインを標榜していくばくか経つが、現場・現物の立ち位置が少しずつずれていたように思う。

3.11をまたむかえる。

最後に被災された方々のご冥福とお見舞い、一日も早い復興をお祈りいたします。



湾岸の生産設備が壊滅 石巻

		申請者		プログラム名	実施日	申請金額
		所属	氏名			
学部	1	応用生物学課程	原田 繁春	卒業論文発表会と修士論文審査会の開催	24. 2. 2~ 24. 2. 22	50,000
	2	生体分子工学課程	吉川 正和	生体分子工学課程平成23年度卒業研究発表会	24. 2. 23	50,000
	3	高分子機能工学課程	宮田 貴章	高分子機能工学課程卒研生の研究室配属説明会事業	24. 1. 26	50,000
	4	物質工学課程	塚原 安久	物質工学課程・専攻の事務の改善・効率化事業	24. 2. 1~ 24. 2. 29	50,000
	5	情報工学課程	若杉耕一郎	情報工学課程1回生を対象としたチュータ制度	23. 12. 1~ 24. 1. 31	50,000
	6	デザイン経営工学課程	川北 眞史	デザイン経営工学課程内学生表彰	23. 4. 7~ 24. 3. 26	50,000
	7	造形工学課程	長坂 大	造形工学課程卒業制作展の開催	24. 2. 14~ 24. 2. 19	50,000
大学院	8	情報工学専攻	中森 伸行	情報工学専攻修士論文の報告書及び電子ファイルの安全保管	24. 2. 22~	50,000
	9	デザイン経営工学専攻	宮里 勉	デザイン経営工学専攻内学生表彰	24. 2. 10~ 24. 3. 26	50,000
	10	造形工学専攻	伊藤 徹	造形工学専攻修士論文・設計展	24. 2. 14~ 24. 2. 19	50,000
	11	デザイン科学専攻	山本建太郎	デザイン科学専攻修士特別制作展	24. 2. 14~ 24. 2. 19	50,000
	12	先端ファイブ科学専攻	森本 一成	先端ファイブ科学シンポジウム並びに公開講演会	24. 2. 18、 20、21	50,000

## 教育支援事業への感謝とご報告

デザイン経営工学専攻

専攻長 教授 宮里 勉

この度は、貴会の教育支援事業による「デザイン経営工学専攻学生表彰」へのご支援を賜り、誠に感謝申し上げます。

ご支援の成果は、以下のことに使用させていただきました。

- 1) 平成23年度のデザインマネジメント演習ⅠとⅡにおける優秀チームの賞状と記念品。各1件
- 2) 平成23年度修士論文審査会での優秀講演者への賞状と記念品。2件

今回申請致しました「デザイン経営工学専攻学生表彰」の対象項目の「デザインマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」は大学院の春学期と秋学期1回生での必修科目であり、実践を通しての柔軟な発想と構想力、問題解決能力、コミュニケーション能力などデザインマネジメントに必要な高度な能力を学生に修得させるプロジェクト指向の演習です。デザイン、経営、エンジニアリングの3つの分野の混合チームを構成し、機器・製品・空間のデザインに関わる具体的プロジェク

トを通して、工学技術(生産、情報、環境材料、生活科学：シーズ)の立場、あるいは社会的(生活者、市場、企業：ニーズ)な視野から、必要な技術・知識を総合しながら、プロジェクトをステップ毎にシミュレートしてマネジメント能力を修得します。

そのような教育プログラムにおいて、デザイン経営工学専攻学生表彰は、1)の修士1年時の演習科目での表彰が、さらには2)の修士論文審査会でのベストプレゼン賞へと繋がり、学生の勉学・向上心の良循環の加速などにおいて有意義なインセンティブになるものと考えており、貴会の教育支援事業によるご支援は大変にありがたい機会です。

御蔭様で、平成23年度は16名の修士が社会に羽ばたき、新たな同窓会会員に加わります。最後になりましたが、貴会および同窓会会員の皆様の益々のご発展を祈願致しますと共に、今後ともご支援お力添えを賜れば、学生、教員ともども大変幸いに存じます。

## 卒業して60年

酒見 定三  
(窯業科 昭和22年卒)

昭和22年から24年松風工業(現・京セラ・特高圧碍子の三大メーカー)に勤務、ドイツ、ドレスラー：トンネルキルンの発生炉ガス使用をB重油に転換工事を担当しました。

昭和24年から27年日本エナメル(現・タカラスタンダード)に勤務し、石炭焚単独マッフル窯を重油焚単独窯に改造。

昭和27年から34年パキスタンのダダボーイセラミックにてエナメルウエアー製造システムを半自動式に改造、更に重油焚を天然ガスに改造し、東西パキスタンの二国に設置。又トンネル窯も設置しました。それらの評価が良く、現地人と結婚しろと話がありましたが、それは困ると帰国しました。

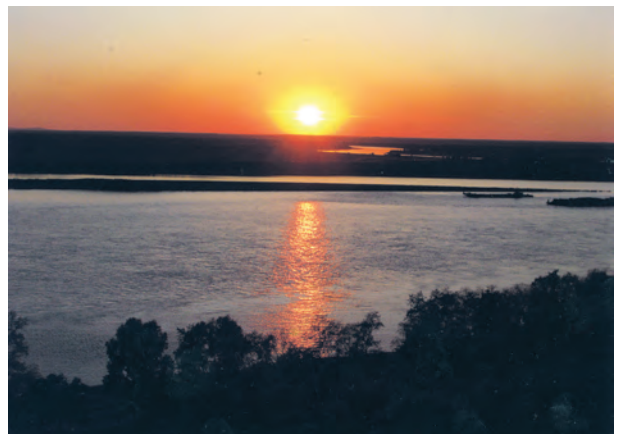
KITの先輩の世話になり、昭和34年から43年東芝セラミックスにおいて連続鑄造用耐火物を開発。特にスライングノズルを開発した事に依り製鋼業界に貢献しました。その後昭和44年から平成23年まで高砂工業で窯業界の発展に努力しました。

その間60年のアルバムを作りましたが、海外の写真も60年となると随分多くなりました。そのなかで代表的なものとして、天・地・人を紹介します。



(天) 赤道からの夕日

バリ島西海岸より、空は巻雲(CIRUS・3000m上空)が明るく地球は丸いことがわかる。



(天) 北極圏よりの夕日

ロシア(ナホトカ)から黒龍江を見て中国をのぞむ。



(地) カップパドキア

谷間から岩壁を写そうとしたら自分の影が水平光線のおかげで写っていた。カラー配置も絶妙でこれはセレンディブティだ！。



(人) テネリフェール島

アフリカ西海岸(カザブランカの西側)のカナリー群島内

## KIT 支部発展をめざして

西 脇 一 雄  
(精密機械科 昭和21年卒)

明けた新年は日本経済にとって誠に厳しい時代を迎えたと思われる。東日本大震災復興、欧州の債務危機とユーロ安、アメリカの財政危機、今後も長引く円高。明治維新、敗戦後復興期に次ぐ変革の時代を迎えた。

私達 KIT の支部活動促進は未来のための、地域の異なった学部卒業生の交流融合の機会でもある。

「伝統とは古くして常に新しい」のことばの様に、KIT も学部毎の交流が縦糸とするならば、支部の交流は環境の変化に適応する横糸の様なもの、かつて私は伝統産業の組合の理事長を務めた。同業種は力の集団であり、異業種の連携は知恵の集団であることを確信。昭和60年京都府異業種交流推進協議会を設立、平成元年には東京で全国中小企業融合化促進財団を設立、理事の一人として活動を。参加企業の提供出来る技術、求めている技術の交流の全国展開、企業間融合で新製品、新技術の開発に大きな成果を挙げることが出来ました。KIT 同窓会も支部活動で地域毎の人脈交流で、技術交流異業種のノウハウを学ぶことが出来、根幹である大学との産学連携も促進されるのでないかと思われる。又技術立国日本の将来に大きな活動が生まれる。

平成19年経済産業省が発表した21世紀企業繁栄のためには、従来の品質×価格×信用に第4の価値として感性の必要性を強調している。京工大の優れたデザイン力や、優れた技術によって生まれる感動の技術が、変革する日本経済の発展に貢献することを期待して止まない。

## 母校で学んだ専門知識で 一生を送った幸せを思う

一 見 輝 彦  
(紡織科 昭和22年卒)

私は昭和19年4月に母校に入学し、22年3月に卒業しました。大戦中に半分、戦後に半分在学しました。終戦時は大変革の時で、突然の自由、個人主義で大混乱し、その上食糧難と物資欠乏で、われわれの学生生活は悲惨なものでした。私が工学系の紡織科を選んだのは、徴兵延期があったこと、紡織は軍需産業とは縁が遠く、競争率も低いだろう、と思ったからです。しかし、それが思いがけず戦後、大変な繊維ブームとなり、紡織科卒が役立つことになりました。

卒業後、東洋紡績に入社しました。それから約10年間、ガチャマンという言葉が流行し、繊維の好況が続きました。ガチャマンというのは織機が「ガチャン」と1回廻れば1万円儲かる、ということでした。その後、繊維の景気も徐々に低下し、もう昔の夢は消え去りました。会社では、繊維製品の生産技術や新しい合成繊維の開発などを手がけ、東洋紡リテイルという会社の社長を最後に定年退職しました。ただ、在職中に取った技術士(繊維)の資格によって定年後、技術士事務所を開設し、韓国、台湾、タイ、ベトナムなどで技術指導をしました。また国内では蓄積した繊維の知識によって、アパレル会社の社員教育、さらにはファッション専門学校の講師などを務めました。

思えば在学中に学んだ紡織知識によって繊維一筋で生きられたこと、波乱万丈ではなく平凡ではあるが穏やかな人生であったことの幸せをつくづく感じています。

これからの短いであろう余生は、趣味の木彫り(数年前に個展を開いた)、写真、カラオケ、旅行を妻と共に楽しみながら続けたいと思っています。

## 在学期(1948~1954年)の ラグビー部

川 端 一 彌  
(窯業工芸学科 昭和29年卒)

私は旧制最後の京都工業専門学校に1948年に入学した。

その当時から体格に恵まれ即ラグビー部に入った。180センチ、75キロの均整のとれた八頭身の美男子?だった。1949年7月に新制大学発足、京都のラグビー界も京大・同志社・立命が関西連盟に、京都工芸繊維大学は龍谷・薬科学芸(現教育)・西京(現府立)と共に9月から五大学リーグとしてスタートした。当時京都工業専門学校と京都繊維専門学校は同志社経専に次ぐ強豪で、合併により戦力倍加・部員倍増、且つ公式のラグビー場として認められ、又当時立命は京都工織大グラウンドを間借りの練習とて、全日本代表の布村監督(早大OB)から無料の適切指導も拜受させて頂いた。お陰で古川敏一氏の学生時代セブズにて全国制覇(1938年)以来の五大学リーグ全勝優勝の栄誉にも輝けた。

メンバーはFW.赤松(織)湯浅(工)鷺田(織)河上(工)新庄(織)真継(織)白石(工)広重(工)、HB. 山田(工)仲川(織)TB. 小島(工)小川(織)上野(工)中川(工)、FB. 末広(織)、RS. 松永(工)植月(工)田中(工)川端(工)都志(織)大森(織)等豪華そのもの、純白のジャージが映えていた。工芸 VS 繊維の壁もなく、「忘己利他」と「信頼」をモットーだった。之傘寿の今日迄頑張れたと感謝万々。

## 我われの同期会

西 村 孝 一 郎  
(色染科 昭和29年卒)

我われは戦後の混乱期もようやく終わり昭和25年新制大学の第2期生として入学してきました。全員男子学生でした。その時代に育った我われは楽しい修学旅行の思い出もなく卒業旅行がもちあがり、夜行列車に乗って西伊豆を巡ってまいりました。卒業後各地毎に時々会う機会を作っておりました、それぞれ仕事からはなれた頃より毎年皆が会える機会をつくっています。

幹事は関東、京都、大阪他組に分け、世話役は適宜に交代しております。最初は、平成7年「長命寺と近江八幡」、平成8年「今治と芸予諸島」、平成9年「淡路島と明石、須磨」、平成10年「鷹ヶ峰界限と然林坊」、平成11年「明日香と今井町」、平成12年「開学記念祝賀会有志7名参加」(クラス別で多かったと思います)。平成13年「アピカルイン京都と洛北界限」、平成14年「箕面、勝尾寺」、平成15年「湯河原、横浜」、平成16年「伏見、宇治」、平成17年「六甲アイランド」平成18年「雄琴、坂本」、平成19年「奈良」、平成20年「保津峡、水尾」、平成21年「三河三谷」、平成22年「摂津峡」。

平成23年11月傘寿を祝って「草津、琵琶湖畔」で開催。主席者は梅本顕、金光範明、北村勇耕、芝山達雄、高田弘、寺田昌平、時岡嘉一郎、西野倭雄、西村孝一郎の9名。各自の近況報告、趣味の話、学生時代の話等です。但し、病気の話は禁句です。

次回の会合を楽しみにしています。

## 超高分子量ポリエチレン とともに35年

佐藤 敏夫

(農場練習生 昭和29年卒)

卒業後、京都府に勤務、配属は職業安定課で当時京都に6000人程いたニコヨン(日雇い)の京都府最大の失業対策事業所の窓口業務である。この職場は私の人生において最も肥沃な時代であった。なぜならニコヨンの世界は、まさに人間社会のるつぼと云うか縮図であり、その人達と2~3週間毎に繰り返し接した体験は、私の人間形成に大きな影響を与えた。

京都府に勤務の傍ら、立命館大学の夜学に通い、卒業とともに名古屋の小さな商社に転職、それから苦労の連続、幾つかの会社を転々としているうちに、砥石の技術者とされ、色々砥石のバインダーを探しているとき、超高分子量ポリエチレンに出会う。

プラスチックは未だ余り知られていない時代、砥石の研究は失敗したが、超高分子量ポリエチレンに魅力を感じ、知人と京都山科にその事業化を開始、以後35年超高分子量ポリエチレン一筋にやって来た。引退して15年、今年会社は創立50年を迎えた。感無量の境地。

思うにニッチな分野で30年頑張れば世界の5指位には入る、また金に執着せず、世のため人のためを考え、やましい気を持たず人生を過ごせば健康で長生きの秘訣。今は地域のボランティア活動とグラウンドゴルフに老妻と楽しむ日々である。先祖のお陰と感謝合掌。

## 「学術研究の将来を担う」 立場として

定家 和佳子

(応用生物学課程 平成22年卒)

平成22年に京都工芸繊維大学を卒業してから、もうすぐ2年になります。今回このように卒業後の状況を執筆する機会をいただきました。大変恐縮ですが、ご報告させていただきたいと思っています。

私は現在、京都大学大学院生命科学研究科の修士課程に所属し、タンパク質の相互作用を測定する新たな手法の開発を目指しています。研究は試行錯誤の連続で、決して順調なことばかりではありませんが、周囲の方々にも恵まれて一歩ずつ進むことができています。23年度の9月には初めて国際学会に参加し、自分の研究を発表する機会を得ることができました。

振り返ると、今私がこうして研究に打ち込めるのはたくさんの支えがあるからだと感じます。学部時代も今も、親身になって学習や進路について相談に乗ってくださる先生がいましたし、モチベーションの高い友人たちにも会えました。こうしたひとつひとつの出会いが、今の自分の毎日を充実したものにしてくれています。

平成24年度からは博士課程に進学し、さらに研究を進めていく予定です。日本学術振興会の特別研究員の内定もいただき、「学術研究の将来を担う」立場としての責任も感じ始めたところです。これからの研究生活では、困難を感じることもあるかもしれませんが、それでもいつも感謝の気持ちを忘れず、少しでも科学の進歩や誰かの幸せに貢献できるよう、精一杯努力していきたいと考えています。



## ものづくりと私

稲田 雄飛

(高分子機能工学課程 平成22年卒)

6年前、本学では大幅な組織改編が行われました。私は、そのとき再編された応用化学系(旧繊維学部高分子学科と旧工芸学部物質工学科が統合)の第一期生として本学に入学し、2年次より高分子機能工学課程に進みました。本学を卒業後、大阪大学大学院博士前期課程応用化学専攻に在籍しており、平成24年4月から同大学院博士後期課程同専攻に進学予定です。学部では高分子について学んできましたが、有機エレクトロニクス関連の卒業研究を通して分子の構造と物性の相関に興味を持ち、今では低分子を自在に合成するところから研究を始めています。

「研究者を目指す動機は？」知人に尋ねられ、頭を抱えたことがあります。答は意外にも単純で、幼少期に没頭したブロック(積み木の一種)遊びにルーツがありました。今思えば、私は幼いながらもかなりの職人気質であり、創っては壊し、創っては壊し、黙々とブロック遊びに興じていたのをよく覚えています。就学後、イラスト・木工に興味をもち、新たな知識・技術を習得すれば表現の幅が広がることを実感しました。遊びの中で工夫し、自由に創ることの楽しさを覚え、その興味はついに分子の世界にまで及びました。— 分子レベルからのものづくり — 私は有機化学と出会い、「これだ！」と手を打ちました。ものづくりに無限の可能性を与え、新たな機能をも生み出せる術……ユニークで画期的なものづくりを実現するため、今後とも鍛錬を続けたいと思います。

## 衣笠祿栄会 トロッコ列車と嵐山例会

福井 忠勝

(養蚕科 昭和26年卒)

平成23年の衣笠祿栄会は約束通り10月14日(金)に京都B班の世話でトロッコ列車に乗り保津川を下り、名勝地嵐山にある角倉了以翁の別邸“花のいえ”で昼食懇親会を開催した。1年ぶりの再会でお互いの健康を喜び合った。遠くは北海道からも参加があり、総員13名の盛況だった。

トロッコ列車はJR山陰本線の亀岡から嵯峨間の断崖絶壁の続く中、保津峡に沿って8つの短いトンネルと1ヶ所の鉄橋を7.3キロ走っていたものを、新線工事に伴って廃線となった線路をそのまま頂戴して全く新しい窓のない観光車輦に代えたものである。

今年は開業20周年を迎え、大師線と地域社会の共生を図りながら、もてなし活動が認められて本年度の京都創業者大賞を授賞した。トロッコ列車にのってそばを流れる初秋の保津川下りの舟と同じ気分を味わうことが出来て満足だった。

楽しみの昼食懇親会は京都が誇る豪商角倉了以の邸址で小堀遠州作枯山水庭園の残る風情ある宿「花のいえ」ではんまりと味わい深い創作京料理に伏見の銘酒を思う存分いただき、60年前の学生時代に立ちかえって、時間の過ぎるを忘れ語り合うことが出来た。

80歳を超えた今、これから先の会運営をどうしたものか……との発言も出たが、2人になるまで母校のある京都で毎年開催していこうという決議となり、来年は京都A班の世話で市内の名園料亭で集まることを約束し散会した。“来る者、帰るが如し”やっぱり京都は我々の故郷である。



### お詫びと訂正について

KIT 会誌第5号の17頁、衣笠祿栄会琵琶湖例会の文面中、

びわこ周航の歌より……誤

琵琶湖哀歌より……正

に訂正し、心から御詫び申し上げます。

文責：福井 忠勝

# 14年つづいた夫婦参加の旅行会 — 建築科昭和25年卒同期会 —

大 西 國太郎

(建築科 昭和25年卒)

私たちは、昭和25年(1950年)に建築科を卒業し、建築設計や施行現場、官庁や大学など、それぞれの分野で国内外にわたって活躍してきました。今年で満82歳や83歳を迎えます。現役はごく僅かになりました。

さて、平成10年(1998年)から昨年までの14年の間、夫婦参加で同期の旅行会をつづけてきましたが、会員の高齢化により昨年で終えることになりました。これを機に旅行会を振り返る記事を、京工織大同窓会誌に掲載してはとの話が持ち上がり、旅行会の昨年担当幹事の一人である小生が、代表して投稿した次第です。

振り返りますと、同期会の開催も、現役時代は互いに忙しく、2、3年に1回、時には5、6年に1回の開催という頃もありました。しかし、時がたって昭和60年代から平成のはじめに入りますと、第1回目の定年を迎える同期生が多くなり、時間的な余裕が少し出てきました。その頃からは、年1回のペースで同期会を開いています。関東や中部、中国の地方からの参加者も多く、京都やその近辺で参加者全員が一泊して、懇親会を開いてきました。

平成9年の同期会だったと思いますが、吉藤君(故人)から「毎年京都の開催では変化がなく、楽しみがない。夫人同伴で同期の旅行会をやっでは」との提案があり、賛成多数で提案が了承されました。翌年、同君のお世話で東尋坊や永平寺を訪ね、片山津温泉で一泊しました。その頃はまだ、夫婦同伴は3組程度でしたが、その後徐々に同伴の組数が増え、現在では同伴がほとんどで、単独参加は、1、2名と逆転しています。同伴の奥様方同志も仲が良く、女学生の同窓会のように、再会を喜び合っている様子はほほえましいものです。

年次にこだわらず、お世話になった幹事さんを思い出しながら、旅行先を挙げていきます。何回目かに関東在住の吉藤、松下、宮本の三君

のお世話で鎌倉、江ノ島から横浜を巡りました。この旅行では貸し切りバスを使わずに、電車を乗り継いでいきましたので、幹事が大変でした。幹事諸君の奥様方も総出で、道案内をしていただきました。江ノ電の中からのんびりと海辺の景色を眺めていたのが印象に残っています。その頃から幹事役を引き受けた際には奥様も同伴という慣例が生まれてきました。近年では、松下、宮本両君のお世話で伊豆半島などを巡っています。

中部地方在住の吉田、木村(一夫)両君のお世話で、岐阜城の見学や長良川の鶺鴒を楽しんだときのことが印象に残っています。真っ暗な川面で、かがり火の光をたよりに数匹の鶺鴒をあやつる鶺鴒匠の技、ひたひたと船べりに寄せる波、闇と光の共演が忘れられません。近年は、両君のお世話で、伊勢、志摩を訪ねました。

また、中国地方在住の佐田君のお世話で、2回にわたって山陰、山陽を旅しました。初回は、萩の城下町の町並みや秋芳洞を巡り、萩で1泊しました。2回目に戦時の人間魚雷「回天」の根拠地・大津島を訪ねたときには、施設の所長さんの切々たる説明に共感し、戦時を知るわれわれは複雑な思いにかられました。その後は、新鮮な河豚料理に舌鼓を打ち、岩国の錦帯橋を見学して帰りました。佐藤君(故人)や田淵君が幹事の佐田君をサポートしました。



H23年度参加者一同 平山都夫美術館にて

小生も含めて近畿在住の同期生が一番多く、2名1組で幹事役をこなしてきました。中でも、佐藤君には大変お世話になりました。幹事が決まらないときは、佐藤君が引き受けてくれ、佐藤君を中心に会が回っていました。佐藤君と木村(一三)君がコンビを組み、幹事役をこなし、正樂井君や小生もサポートしました。

また、佐藤君はこの会の名づけの親で、卒業の昭和25年が庚寅(かのえのとら)に当たるところから、「松ヶ崎庚寅(こういん)会」と名づけてくれました。佐藤君のお世話で、3回にわたって旅行をしました。神戸のハーブ園を訪ねたときには、丁度 JR 福知山線の大事故が起きました。携帯ラジオでその状況を知り、一同驚いたことが印象に残っています。奈良・京都の古社寺歴訪もありました。神戸や奈良行きは、体調不良で遠方へ出かけられない同期生たちのために企画されたもので、吹田で一泊し、ゆったりとした時間を過ごし、旧交を温めました。近年では、天橋立や伊根の船宿を巡り、蟹料理を満喫しました。岩国の河豚料理につづく名物料理シリーズとして佐藤君が企画してくれたものです。

その佐藤君が急逝されるという予期せぬ出来事が、一昨年起きました。また、一昨年から昨年にかけて、長年闘病生活を続けられていた内林、竹中、寺本の3君を失うという悲しいことが起きました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

かなり早い時期に、辻、井関両君のお世話で、明石海峡大橋から淡路島、鳴門海峡大橋を渡り、瀬戸内の眺望を楽しみました。淡路島では、北淡震災記念公園を訪れ、阪神淡路大震災で現れた野島断層を見学しました。改めて、将来起こり得るであろう大震災について、多くのことを考えさせられました。帰路、有馬温泉で一泊しました。

また、中村、谷口(一郎、故人)両君のお世話で、保津峡下りを楽しんだことも忘れられません。往路のトロッコ列車から見る峡谷と清流、帰路の水しぶきを浴びながら急流を下るスリル

が、セットになって、印象に強く残っています。

吉岡君と小生で2回幹事役を引き受けました。1回目は、近江八幡の八幡掘りや町並みを訪ね、内湖の水郷巡りを楽しみました。2回目の一昨年は、「鞆の浦」と「しまなみ海道」を旅しました。鞆の浦では、ボランティアガイドの案内で古跡を訪ね歩きましたが、中でも、福禅寺の対潮楼からの眺望は「正に絶景」と感服しました。2階の座敷に上がるなり、幅広い窓一面に瀬戸内海の風景、酔仙島などの島々が浮かぶ光景が、一幅の絵のように迫ってきました。潮待ちで鞆の浦に寄航した朝鮮通信使が「日本第一の景勝」と絶賛したのは、なるほどと納得しました。



対潮楼からの眺望

同期の旅行会は、最盛期には20数名の参加がありました。しかし、亡くなる方や、体調不良の人が増え、参加は10数名と減ってきました。二日間の貸し切りバスの費用負担が難しくなってきました。また、私たち同期生も高齢で、旅行の幹事役が重荷になりつつあります。そこで、話し合いの結果、今年からは元に戻って、京都やその近辺で一泊し、夫婦参加で同期の懇親会を開催し、旧交を温めることにいたしました。また、昨年亡くなった同期生の奥様にも参加していただいています。

今年の幹事は中村・正樂井の両君が引き受けてくれました。できるだけ長くこの同期会をつづけていきたいと、一同願っております。

# 杉本忠三氏の母校への貢献

石 沢 加津子 (意匠工芸学科 昭和51年卒)



杉本家 夫人 長女 次女 杉本忠三氏  
(杉本忠三氏提供)

明治44(1911)年に左京区高野蓼原町に新工場建設。昭和17年に第3工場まで増設。「高野川に沿う本社工場全景」(『杉本練染株式会社二十五周年史』より)



杉本忠三氏(色・明治43卒・明治20-昭和24)はご周知の通り、「京都高工会」創立に当り常務理事に就任、初代石橋理事長(昭和6-17)期間中、理事長代理としても活躍。(因みに2代理事長は霜鳥之彦氏・昭和17-昭和26.3月在任)

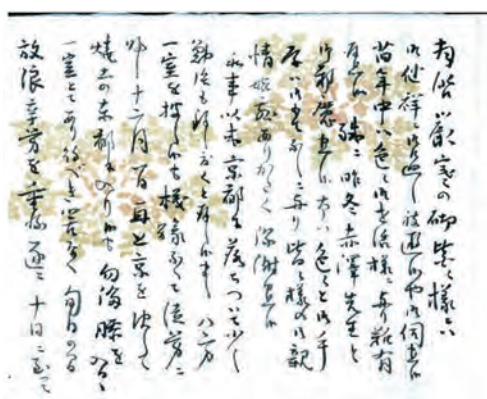
杉本氏は、爾来最期まで卒業生の指導や就職斡旋に尽力され、また卒業生や教官の作品を買い上げて支援された。京都市上京区衣棚丸太町上ルに生まれ、新工場ができると杉本精練場副場主として技術部門を担当、多くの特許をとる。昭和17年に杉本練染(株)になってからは専務取締役として活躍。昭和20年からは取締役会長となる。

杉本忠三氏のお名前と功績は、学生時代ゼミの時間に野口茂先生よりお聞きしていたが、私が京都・北白川の閑静な住宅地にある杉本邸を訪ねたのは、2005年6月15日であった。



長女の杉本千代子様(2005年6月・筆者撮影)

90歳に近い方とは思えない、記憶力の良い優しい千代子様  
(2012年2月は94歳)



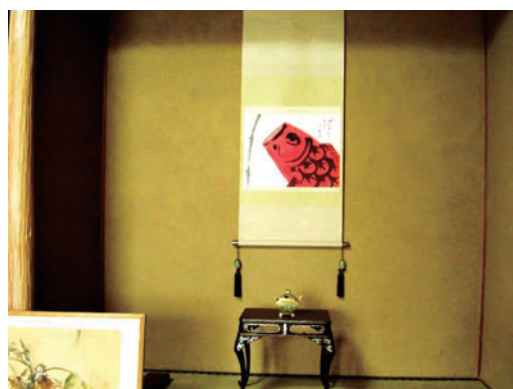
杉本忠三氏へ加藤八洲氏(当時は東京在住)からの御礼状(巻紙に筆)の冒頭部分



大判の画帖「東海八十里」加藤八洲画 昭和14年



加藤氏の写生旅行の費用の為に、杉本氏は画帖を買い上げて支援された



杉本忠三氏の絵の軸装作品(右上に「昭和十二年五月青蛙」とある)「青蛙」の号で和歌も詠まれた



絵付け皿も日常の食卓で愛用されている  
〈赤澤教官の作品〉  
他にも絵画多数

(杉本邸にて筆者撮影)

大変温かく迎えて頂いて、千代子様やご息子の杉本忠之氏が惜しみなく、大切な数々の作品を並べて下さり、存分に拝見できてとても有意義な一日でした。忠三氏は当時府一(府立第一高等女学校)の学生であった千代子様を同伴して、母校に行っておられ、吉田時代の京都高等工芸学校のようにもよく覚えておられて、貴重なお話を伺えたことは望外の喜びでした。

その上、会誌掲載の為に快く撮影させて頂いたり作品をお貸し頂き、心より感謝申し上げます。今回ご紹介出来たのは、ほんの一部ですが、実際手にとって画帖を1ページずつ見る楽しさは、計り知れないものがあります。他にも数人の学生が競って描いた水彩画帖もありました。



霜鳥教授(右)の大作油彩画のモデルを務める加藤氏(左)  
(加藤八洲指導の版画教室の深田三郎氏 提供)



越後の女性を描いた画帖(昭和八)より  
(水彩画・左下に「安(ヤス)」の落款)杉本家で大切に保管されていた

版画に転向後の加藤氏  
展覧会場の自作の前で  
(深田氏提供)



「琉球美人」赤澤鍼太郎 画



「故杉本忠三氏像」昭和30年11月霜鳥之彦 謹写  
(両者共 杉本忠之氏撮影・提供)

猶、加藤八洲氏(図・昭和4卒・明治40—平成9)の版画作品は、歿後東京の画廊が仲介となって加藤夫人と話し合い、予てより氏のファンだった北海道の食品会社社長が買い取って、札幌の「北武記念絵画館」に収蔵されました。「氏は生前、自作が海を渡って北海道に行ってしまうことを決して望んではいなかった」と側近の弟子は話されました。

「加藤さんとは、京都まで父の御見舞に来られたのがお会いした最後でした。」と霜鳥教授のご子息・霜鳥正氏は語られました。

氏と仕事上で長年面識があり、また「松ヶ崎意匠会」副会長もされた山北栄寿氏(図・昭和17卒)は、大先輩・加藤氏に「一度、京都の母校へ行って、(作品収蔵について)相談してみられるよう」強く勧められたそうですが、叶わぬ事となりました。折角、母校に美術工芸資料館がありながら、良い作品が残ることなく、ご遺志に反して他の美術館に行ってしまったことに胸が痛みます。

一方、杉本様ご一家が、忠三氏が蒐集された本学関係者の多くの作品を、今日まで大切に飾ったり愛用されているのは、本当に有難いことです。にも拘らず、杉本忠之氏には、本学『百年史』編纂の折に資料提出のご協力を頂きながら、結果報告のない儘返却されたという非礼が起こっていたのは、遺憾な事です。

末筆ながら、杉本誠一郎氏(当時は杉本練染(株)取締役総務部長)には、2005年7月19日に、『杉本練染株式会社二十五年史』(昭和36年11月発行)をご提供頂き、それによって、杉本忠三氏のご経歴等を詳細に知ることができました。心より厚く御礼申し上げます。

君が為めなすあるの日を誓へども  
国の姿に心おちつかず

梓弓六十路の坂を越えつゝも  
何をしとげし思ひ出もなき  
青蛙

(杉本忠三氏の遺作二首

『杉本練染株式会社二十五年史』より)

(本文中の写真転載禁止)

## KIT iTech Program による留学体験記

『大学等における学生相互交流プログラムや大学間ネットワークの構築等に寄与し、大学等の国際化を促進することを目的として、3か月未満の学生受入及び派遣のプログラムを支援する留学生交流支援制度(SSSV)(ショートステイ・ショートビジット)が平成23年度より日本学生支援機構にてスタートしました。

本学では、実践的な国際競争力・協働力を学

生に体得させることを目標としたKIT iTech Program(国際的・高度技術者育成のためのインターナショナルプログラム)がSSSVに採択され、平成23年度は30名の派遣・25名の受入を実施しました。』(国際企画課より)

今回はその中から同窓会経由で4名の学生にお願いしました短信をご紹介します。

### タイ留学体験記

竹下 智之

(デザイン経営工学専攻 修士1回生)

私は平成23年の12月から1ヶ月間、タイのチュラロンコン大学へ留学しました。私は本学においてオフィスデザインを研究テーマとして扱っており、留学の目的はタイの先進的なオフィスを調査して、得られた知見を今後の研究に応用するというものでした。また休みの日や時間のある時は、大学で知り合ったタイの友人達と過ごすことで楽しく滞在生活をおくることが出来ました。タイの学生には非常に熱心にお世話をしてもらいました。観光案内をしてもらったり、食事を共にしたり、一緒にお酒を飲んだり…。私がタイで出会った人々はとても人情に厚く、冗談が好きな人が多かったと思います。おかげでいつも笑って過ごすことが出来ました。今後は国際的な舞台で活躍しお世話をしてくれた人たちに少しでも恩返しができるよう、本学において研究に取り組んでまいりたいと思います。



滞在最終日の夜、バンコク市内のレストランにて  
(写真提供：谷口幸来さん)

### デルフト工科大学での経験

中内 菜都花

(デザイン科学専攻 修士2回生)

2011年9月、1ヶ月オランダのデルフト工科大学へ行きました。この大学は学生の3割が留学生で、私が行ったインダストリアルデザイン学科は大学院生150人中留学生が半数いました。日本人はおらずアジア圏は中国、台湾の人が多かったです。授業は、日本の大学院より授業数が多く、授業時間が長いことが印象的でした。1つの授業で4時間のものもありました。日本では質問の時間が授業合間に設けられることが多いので、生徒が授業中に先生が話している途中で手を挙げ、質問し、先生と論議している姿に驚きました。先生の話も授業というより講演会のような語りかけるスタイルで、授業後には毎回拍手で終わるということも日本では経験しなかったことなので新鮮でした。1ヶ月という短い期間だったので制作に携われませんでした。海外から見た日本や世界でのデザインの動向について知ることができとても有意義な期間を過ごすことができました。



インダストリアルデザイン学科棟内部

## 韓国へのショートビジット を経験して

佐藤 駿

(先端ファイブ科学専攻 修士1回生)

今回の韓国滞在は、主として英語、韓国語能力の向上、自分の研究に関連することを研究しておられる大学研究室および企業の訪問、そして韓国の方々との交流を目的とし、Yeungnam 大学へ3週間滞在させていただきました。私の研究に関連することを行っていらっしゃる Hannam 大学の研究室や韓国ファイバーという企業の見学、世界各国から韓国に留学に来ている学生達が集まる、英語の勉強会への参加という形で目的を遂げることができました。また、滞在先、訪問先ではたくさんの方々を知り合うことができ、国を越えた交友関係を築くことができました。

言葉が通じにくい中でコミュニケーションを取り生活すること、また Hannam 大学や韓国ファイバーを訪問させていただく際には、電車やバスで2時間程度と遠い距離を一人で行かせていただいたこと、その際にはホテルも自分で探したことなど困難もありました。しかしながら、日本では味わえない緊張感の中で生活し、終わってみれば自分に少し自信が持てるようにもなりました。

私を韓国に行かせて下さった京都工芸繊維大学および私を受け入れてくださった Yeungnam 大学 KOO 教授、Hannam 大学 Choi 教授、韓国ファイバー Cho 会長、そのほか手助けをして下さった方々に多大なる感謝の意を表します。日本で生活しているだけではできない貴重な経験をたくさんさせていただくことができました。この経験を生かして今後の自分の成長につなげていきたいと思えます。



英語の勉強会にて、最前列右の髭の方が英語教授

## スイス滞在記

黒岩 勇紀

(情報工学課程 4回生)

スイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETH)の人間工学・労働環境研究室を訪問するために、約3週間スイスに滞在しました。今回訪問した研究室は、私が研究している「椅子の快適性評価に関する研究」などに関係のある、労働環境・人間工学の分野において先進的な研究室で、学生の意識も高く非常に強い刺激を受けました。指導教官のロイブリ先生や学生の方々とのディスカッションし、研究スタイルを学ぶことで技術的な要素はもちろん、課題へのアプローチ方法、考え方など多くのものを吸収することができました。

訪問時期がクリスマスと年末年始とが重なったこともあり、休暇中は同制度を利用してかつて交換留学生として日本に短期留学していたクリスチャン氏が、中世の街並みが残るスイスの街を案内してくれました。歴史的な建造物や雄大な景色は、しばらく時を忘れて見入ってしまうほど美しいものでした。また研究室の方々以外にも、宿泊先のルームメイトや道先で出会った人々とお互いの国や文化について話し、異なる国、異なる文化の人々の考え方を知る貴重な機会になりました。

今回のスイス訪問は私にとってとても貴重な経験となりました。訪問先の研究室の方々を始め、周りの人々がとても親切に接して下さったおかげで、約3週間快適な生活を送ることができました。最後になりましたが、今回のスイス訪問に際してご支援頂いた全ての関係者の皆様に心より感謝いたします。



トゥーンのニーダーホルンにて、奥に見える山々はベルナーオーバーラントの山々

## お知らせ

### 「艸丘展」と同窓生の交友

池崎 宰  
(人造繊維科 昭和18年卒)

人造繊維を学んだ私が、何故絵画に興味を抱き、定年退職後、長年同窓会の「艸丘展」に出品し、生甲斐にしているかを述べてみたいと思います。

在学中、本館、現在は「3号館」前に4体の胸像がありました。古武士風の浅井忠先生の像には学位が刻まれてなく、何を専門に教授しておられたのか、級友の誰も知識がありません。

昭和18年9月繰り上げ卒業、1ヶ月後に入営、2年7ヶ月の軍務に服し復員した。その間、不思議にも浅井先生の氏名は記憶していた。ある日、先生の業績を新聞紙上で読み、母校の教授の傍ら、関西美術院を創設されて、日本を代表する安井曾太郎、梅原龍三郎両画伯を指導された事を知り、絵画に益々興味を抱くようになった。

定年退職後、カルチャー教室で約10年間、人体デッサンを学び、油絵は美術の本を購入して独学で勉強しました。

学部が統一された現在、母校は一つに纏った訳ですから、繊維学部ご出身の方達も、絵画、写真、書道、陶器、織物、工芸、CG、立体造形作品等に趣味を持たれ、丹精込めた作品を出品なされて、交友の輪に入って頂くことを願って止みません。

#### ◇第44回 艸丘展

2012年9月28日(金)ー10月3日(水)  
午前11時～午後7時(最終日は4時終了)  
ナルミヤ戎橋画廊  
大阪市中央区道頓堀1-9-3 (戎橋南詰)



「艸丘展」会場には笑顔があふれる (撮影：石沢加津子)

左：毎年、出品者の記念撮影でも貢献された芝野丈次氏  
(建築科・昭和19卒)

右：事務局でも活躍された池崎宰氏  
(人造繊維科・昭和18卒)

### 同窓美術展の意義とご案内

石沢 加津子  
(意匠工芸学科 昭和51年卒)

学科の同窓会である「松ヶ崎意匠会」の美術クラブ設立を引受けて、その目的の一つである同窓美術展への応援として、3展覧会のトップを切る艸丘展会場を訪ね、会長方々と名刺交換した2000年9月から早12年になります。

その後大学の方針で実質上の組織がなくなり、「松ヶ崎デザイン会」と改称されて、予算配分も無くなった2006年以降も、母校との架け橋が途切れないように、私はボランティアで継続してきました。一日も早く、大学にその役目を担う部署が設置される事を願っております。

大阪「艸丘展」は、創始者の堀田保氏(図・昭和6卒・98歳まで出品・来場接客)が、同級生と4名で絵の勉強会「艸丘会」を作られ、その作品発表の場として開催されたのが起である。家族ぐるみで展覧会を手伝ったり旅行をして、普段から親睦を高められたのが継続に繋がったと回想されたことがある。展覧会には、恩師の霜鳥之彦(正三郎)教授も来場されて、絶賛されたという。

「艸丘会があったからこそ、艸丘展が出来たのですよ」と明言された堀田様のお声が胸に響き、3同窓美術展の将来を考える上で、今更にその意味の深さを痛感します。

是非ご高覧、ご参加頂きますよう、ご案内申し上げます。

同窓美術展への出品等のお問い合わせは、TEL 070-5665-7056(石沢)までお願い致します。

#### ◇第31回 四明展

2012年10月23日(火)ー28日(日)  
ギャラリーカト  
京都市中京区寺町通御池下ル

#### ◇第46回 叡展

2012年12月10日(月)ー16日(日)  
ギャラリーくぼた 本館1F  
東京都中央区京橋2-7-11



通りからもよく見える「叡展」会場のようす  
レイアウトも腕の見せ所：坂田 融 氏(建工・昭和41卒)  
企画・事務局：進藤正巳氏(意工・昭和37卒)  
叡展の写真撮影：溝口隆英氏(建工・昭和40卒)



## 衣笠同窓会だより 平成24年度理事会・総会のご案内

平成24年度衣笠同窓会理事会・総会を下記の通り開催いたします。皆様におかれましてはご多忙かと存じますが、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

- 日時** 平成24年6月30日(土)午後2時から  
**場所** 新・都ホテル  
**議題** 1. 平成23年度事業報告及び決算報告  
2. 平成23年度会計監査報告  
3. 平成24年度事業計画及び予算案  
4. 役員選出  
5. その他

衣笠同窓会の理事会・総会のみにご出席される方は、大変お手数ですが、次の所までご連絡ください。電話075-724-7776(森 肇)

なお、当日は同ホテルにて京都工芸繊維大学同窓会(KIT 同窓会)の総会と懇親会が開催されます(総会は午後4時から、懇親会は午後6時からの予定)。

KIT 同窓会の総会・懇親会に御出席される方は必ず同封の葉書にてご連絡下さい。

## S25養蚕科だより

**加藤 幸利**  
(養蚕科 昭和25年卒)

平成24年1月17日(火)、三十三間堂東隣のホテル、ハイアットリージェンシー京都(旧パークホテル)に10名が参集、楽しい新年会(昼食会)を行った。

我々の入学時は敗戦の混乱未だ癒えぬ昭和22年であったので、陸軍航空士官学校を卒業した少尉殿や、予科練出身の海軍2曹他、海外からの引揚学生等も含み年齢差があった。

全員80歳をとっくに越えてしまった今となつては、宿泊クラス会の開催は、理想ではあっても実行は難しくなりました。

そこで毎年正月に新年会を兼ねて昼食会を続けようと言う事で上記会合となった。

昼食会の方は加畑栄三郎君が世話人となって以前から小規模で行っていたものを加藤が引き継いだもので、一人でも多くの方が参加していただける事を望んでいる。

本年は岐阜から石原・太田、鳥取から永見、京滋から岡垣・加藤・品川・内海、阪奈から中嶋・多川、兵庫から清水の計10名が出席した。

### 連絡先

〒614-8004 京都府八幡市山柴9番地  
加藤 幸利  
TEL.075-981-0340 FAX.075-981-9383

## KIT ゴルフ会コンペ の開催と会員募集

新たに KIT 同窓会が発足したのを期に「KIT ゴルフ会」として、例年4月と10月にコンペを実施しています。各回の参加者は約30名です。

次回は10月18日(土)に開催の予定ですので、皆様のご参加を歓迎致します。

また、同窓生、職員の方も含め会員を募集しています。(現在会員100名程度です。)

会長は、坪井弘光氏、副会長は土井健司氏です。

連絡は下記幹事までお願いします。

**幹事**：森橋 俊文 電話：090-3266-6094  
谷垣 弘明 電話：090-5152-5824

## 卒業証明書等の申し込みについて

各種証明書の申込みは、郵送又は学務課窓口で受け付けています。

### ●郵送での申込み方法

以下の3点を同封し、封筒に「証明書発行願在中」と朱書きのうえ、郵送してください。

①証明書発行願(以下の事項を記入してください)

- ・氏名(フリガナ)
- ・生年月日
- ・出身学部、課程・学科/出身研究科・専攻
- ・入学年月、卒業(修了)年月
- ・学籍番号(不明の場合省略可)
- ・必要な証明書の種類と部数(例：卒業証明書 和文1部)
- ・使用目的、提出先
- ・現住所、連絡先の電話番号・メールアドレス

②本人確認書類(運転免許証など)のコピー

③返信用封筒(送付先の住所・氏名を明記し、切手を貼ってください)

※申込方法の詳細及び「証明書発行願」様式は、大学 HP に掲載しています。

京都工芸繊維大学ホームページ

<http://www.kit.ac.jp/>

[トップページ<対象者別メニュー：卒業生の方<証明書の申込みについて]

### ●送付・問い合わせ先

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1  
京都工芸繊維大学 学務課学務調査係 宛  
TEL：075-724-7117

## 美術工芸資料館の活動

並木 誠士

(美術工芸資料館長)

同窓会の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

2011年度は、「もうひとつの京都—モダニズム建築から見えてくるもの—」展と「ラヂオの時代—谷川俊太郎コレクションを中心に—」で幕を開けました。いずれも、マスコミにも紹介され、多くの方々に見ていただきました。その後は、建築系の展覧会が続き、二階では、「建築家白井晟一 精神と空間」展を、一階では、竹中大工道具館の協力を得て、「ベルギー 木の匠の技」を開催しました。全国的にも数少ない建築系の展示をおこなう館として、今後もこのような活動を続けてゆきます。

2011年度の松ヶ崎小学校の美術教室は、この建築展示を利用して、小学生たちに「わたしたちの町」の模型を作ってもらいました(図1)。この模型は、いまでも松ヶ崎小学校に展示されています。

2011年、美術工芸資料館は開館30周年を迎えました。それを記念して、秋からは30周年記念の連続企画をおこないました。

第一弾として、美術工芸資料館におけるポス



図1 美術教室



図2 30周年記念展 1 会場風景

ター收藏の歴史をたどる「コレクションの歩み—ポスターを中心に—」を開催しました(図2)。会期中には、竹内次男前館長をお招きしてシンポジウムもおこないました。また、このシンポジウムに合わせて、館蔵ポスターの名品12点を用いた2012年カレンダーを作成しました。現在、このカレンダーを使っている方もいらっしゃると思います。この館蔵ポスターの名品12点のポストカードも作成しました。皆様もご活用下さい。

第二弾は、染織の展覧会「染を語る」で、2008年に開催した「裂地を辿る—京都工芸繊維大学美術工芸資料館館蔵染色資料の初公開—」に続く企画です。第三弾としては、これまで連続10回にわたり展覧会を続けてきた村野藤吾の図面展の継続でもある「第11回村野藤吾建築設計図展 新出資料に見る村野藤吾の世界」を開催しました。

文化遺産教育研究センター企画の展示としては、「京都のモダンデザインと近代の縞・緋」展で大正・昭和期の京都の染織産業と京都高等工芸学校のかかわりを示し(図3)、2012年1月からは「高峰讓吉邸と京都高等工芸学校」展を開



図3 京都のモダンデザインと近代の織・絹 会場風景

催し、高峰譲吉のアメリカでの居宅のインテリアを担当した牧野克次や澤部清五郎など、初期の高等工芸学校にかかわった人びとの業績を紹介しました。

2011年度は、博物館実習の受講生が二つの展示を企画しました。最初が女性ポスターに焦点をあてた展示「ポスターで魅せる女性」、二つ目は、タイプライターのデザイン面に注目した展示「Type！－美術工芸資料館の隠れたコレクションより－」です(図4)。いずれも、担当教員の指導のもと、作品選びからディスプレイまで学生たちが中心になって魅力的な展示に仕上げました。学芸員予備軍のための実践的な実習になったと思っています。

2012年5月からは、美術工芸資料館が収蔵するさまざまな絵画を展示する企画を予定しています。浅井忠「武士山狩図」は有名ですが、そ



図4 学生企画 タイプライター展 会場風景

れ以外にも美術工芸資料館では、白髪一雄の抽象絵画など数多くの作品を収蔵しています。それらを一堂に会してご覧いただく企画です。その後、8月のオープンキャンパスに合わせて、特別展「そうだ、旅に出よう－旅情を誘うデザイナー－」展を開催します。ポスターを中心に、旅に関するさまざまな作品を展示します。

2012年秋のイベントのひとつに「京都・大学ミュージアム連携」企画による「大学は宝箱！－京の大学ミュージアム収蔵品展－」(2012年10月3日～11月25日)があります。「京都・大学ミュージアム連携」は、2011年度に本学が中心となって文化庁の助成を受けて立ち上げたもので、京都市内13大学14施設が参加して、合同でさまざまな企画をしていきます。2011年度には、2月11日に本学センターホールでシンポジウムを開催しました(図5)。

「大学は宝箱！」展は、京都大学総合博物館を会場にしますが、各大学ミュージアムの収蔵品のなかからテーマを決めて展示をする展覧会で、京都ではじめての試みであるだけでなく、全国的にもひとつの地域の大学ミュージアムが合同する試みははじめてです。もちろん、美術工芸資料館からも京都工芸繊維大学を象徴するような作品を展示します。「大学の町 京都」ならではのイベントとも言えると思います。ぜひ、会場へ足をお運び下さい。



図5 大学ミュージアム連携シンポジウム

## 変わり続ける附属図書館に、ぜひお立ち寄りください

KIT 同窓会誌をご覧になっている皆さまが最後に附属図書館に来られたのは、いつ頃のことでしょうか？

附属図書館では、平成16年度に内装や資料、コーナー配置を一新する大がかりなリニューアルを実施しました。その後も耐震改修工事による内装リニューアルと壁面を利用したのピンホール写真(「科学と芸術」で制作した学生作品)展示(平成21年度)、谷川俊太郎氏より寄贈していただいたラヂオコレクションの常設展示コーナー設置(平成22年度)、更に1階部分のカーペットを刷新し、新たな試みとして企画展示を実施する(平成23年度)など、次々にその姿を変え続けています。ぜひ一度、新しくなった附属図書館にお立ち寄りください。

また、卒業生の皆さまには、以下の要領で附属図書館をご利用いただけます。卒業後も、ぜひホームライブラリーとして、当館をご活用ください。

### ◆利用登録してご利用される場合

住所の記載された身分証をご持参の上、1Fカウンターでお申し込みください。利用登録の上、翌日以降に利用証を発行します。この利用証により入館ゲートを利用できるほか、図書の貸出が可能となります。(年度ごとの更新が必要です。)

### ◆利用登録せずにご利用される場合

住所の記載された身分証をご持参の上、1Fカウンターにお声かけください。図書館利用願に氏名等をご記入いただきます。貸出はできませんが、資料の閲覧、コピー等が可能です。また、見学のみのご来館も歓迎いたします。



1F 自習室内 谷川俊太郎ラヂオコレクション



1F アメニティゾーンはカーペットを刷新

### 返却忘れの図書はございませんか？

卒業生の皆さまに、誌面をお借りしてありがとうございます。在学中に借りたまま、返却をお忘れの図書館資料はございませんでしょうか。当館からの返却のお願いが行き届いていなかったこともあり、借りたままお忘れの図書もおありかと思えます。もし、お手元に返しそびれている資料がございましたら、ぜひご返却をお願いします。

図書館の資料は、学生の皆さんの学習支援のため、慎重に選定し、提供してきた資料です。一人でも多くの学生さんに、少しでも長く有効活用していただきたいと思っています。ぜひご協力をお願いいたします。

### ◆来館して返却される場合

1Fカウンターにてご返却ください。閉館時(夜間、日曜日等)は、附属図書館玄関前にブックポストを設置しておりますので、そこに投函して返却していただくことも可能です。

### ◆郵送等で返却される場合

来館することが難しい場合、郵送、宅急便等でご送付いただいても結構です。しっかりと梱包していただき「返却資料在中」とお書きください。無記名でも差し支えありません。

### ◆図書を紛失された場合

可能であれば、同じ図書を弁済していただければ助かります。附属図書館までご相談ください。

なお、今後延滞図書のある卒業生の皆さまには、附属図書館から返却のお願いのご連絡を差し上げることがございますので、ご了承いただきますと共にご協力くださいますようお願いいたします。

## 課外活動

### 弓道部

主将 栗谷 拓紀  
(機械システム工学課程 2回生)

矢を射る場所のことを『射場』と呼びますが、そこは不思議な空気で満ちています。普段是和気藹々としている部員たちも、射場に立つと目に静かな闘志を灯します。「っしやあ!!」と、的中を告げる掛け声が響き渡る射場は、総勢23人の部員たちが、日々、切磋琢磨を続ける真剣勝負の空間です。

弓道で『勝負』といえば、それは己との闘いを意味します。ですが、それだけではありません。私たちは数ある弓道の流派の中でも礼儀を重んじる『小笠原流弓馬術礼法』という流派に属しています。そして流派の行事に参加させていただくことで、礼儀作法を学ばせていただいています。弓道は自分との闘いであると同時に、部としてのまとまりが求められる団体競技でもあるからです。

目標は、三部リーグから二部リーグへの昇格です。長く辛い道のりですが、皆で一致団結すれば必ず実現できると信じています。みなさん、どうぞ応援よろしくお願いたします。



### 広告研究会

部長 夫 貴代  
(造形工学課程 2回生)

我々、広告研究会は主にプレゼンテーションスキル向上の為に研究や、様々な広告コンペへの参加、フリーペーパーの作成などを軸に活動しています。全ての活動に部員全員が参加する訳ではなく、それぞれが自分の希望に沿った活動に参加し、時には自らやりたい企画をミーティングで提案します。2週間に一度行われる全体ミーティングでは、それぞれの活動の進行状況を確認しあい、行事前になると、新入生歓迎や大学祭の屋台の宣伝を目的とした部内フライヤーコンペを開きます。夏休みには、合宿で部員同士の親睦を深め、関西の大学の広告研究会が一同に介するマーケティング大会に参加し、他大学からたくさんの方の刺激を受けています。ただいま広告研究会は、デザイン経営工学課程、造形工学課程に所属している部員がほとんどです。他課程からの入部も歓迎しておりますので、いつでもミーティングを覗きにきて下さい。お待ちしております！



### 自動車部

部長 中島 辰彦  
(機械システム工学課程 3回生)

われわれ自動車部では個人の競技活動がクラブ活動の中心です。

自動車部はJAFの加盟クラブ・JMRC近畿の正会員(No.226012)です。

クラブ全体で行っている活動としては、年2度の近畿七大学対抗ラリーのエントリーを軸に、ラリー合宿、ジムカーナ合宿等を行っています。

近年では中部地方に日帰りでサーキット走行などを行っており、より気軽にモータースポーツを楽しむ機会も増えてきました。

毎週の活動は土曜日にミーティングと、整備の勉強としてクラブ所有の部車を全員で整備しております。

また歴史が長いためOBになっても競技を続けている先輩方も多く、各カテゴリーで多くの方が活躍されております。

部室に遊びにいらっしゃる先輩方も多いため、現役部員にとってはよい刺激となっています。



### 室内管弦楽団

部長 宮地 真由  
(応用生物学課程 3回生)

私たち、通称「しつかん」は“好きな楽器で好きな音楽を”をモットーに自由に音楽を楽しんでいます。

曲のジャンルは、室内管弦楽に留まらず、クラシック、ジャズ、ポップス、映画音楽、ゲーム音楽、など幅広く演奏しています。また、楽器も室内管弦楽で登場する弦楽器、管楽器を始め、サクソ、リコーダー、ティンホイッスル、ギター、ベース、電子ドラムなど様々な楽器で、色んな編成を組みます。それぞれがやりたい曲を提案してメンバーを集めるというスタイルで、枠にとらわれない自由な演奏を楽しんでいます。

大学から音楽を始めた、今までと違う楽器を始める、等という人も多くいます。とにかく“音楽が好き”という人たちの集まりです。現在部員数は約40名で、練習時間は特に決まっていませんが、それぞれが空き時間を利用してマイペースに練習しています。

主な活動イベントとしては、夏休みの練習合宿、外部コンサート、松ヶ崎祭コンサートを行っています。演奏会では、私たちの自由な音楽を楽しんで頂きたいと思っておりますので、気軽にお越し頂けると嬉しいです。



## 写真研究部

部長 福安 政博  
(物質工学課程 2回生)

私たち写真研究部は、院生も含め約30名所属しています。撮影会は月に1回程度、学内での写真展は気が向いた時に、学外での写真展は、去年の6月に京都府大と合同で行いました。合宿は、春と夏の2回行い、去年はそれぞれ、韓国と石川県に行きました。

とにかく自由な部活です。暗室も復活しましたし、やりこめる環境は整いつつあると思います。これからは、その考えを共有し、理解しあえる環境を作っていけたら良いなと思っています。



## 軟式野球部

主務 野土 谷亮  
(機械システム工学課程 2回生)

私たち軟式野球部は3回生9人、2回生12人、1回生1人で活動しております。最近での試合では力が及ばず、2部リーグからの昇格がなされていない状況です。しかしこの状況を通して、私たちは勝負事に勝つことの難しさを誰よりも理解できたはずで、それ故に、私たちはチームをどのように変えていくべきかどのようにすればチームがよくなるかについて考えました。その結果は、もう一度原点に立ち返り、一人ひとりチームと個人を見直し、もう一度新鮮なる気持ちでチーム作りに臨むという結論に至りました。これからは今まで以上にチーム一丸となり心一つにして、また次なる戦いの場へ跳び込み、今度こそ勝利というものを掴めるよう頑張っていきます。

今年もOB会を開催する予定ですので、こういった場でOBの皆様との親睦が計れることを楽しみにしております。今、こうして私たちが野球ができるというのはOBの皆様が代々この野球部を大切に受け継いでこられたことに他ありません。私たち現役部員はそのことを十分に理解し、OBの皆様に対する感謝の心を常にもって、また野球に打ち込みたいと思いますので、これからも京工大軟式野球部を応援よろしくお願いいたします。



## 美術部

部長 阿部 敬一  
(造形工学課程 3回生)

私たち美術部は現在、約60名で活動しています。美術部と聞くと、絵を描いているとイメージされる方が多いと思います。もちろん、絵を描く人、その他制作活動を個人的に行い、部全体としては年に数回のインスタレーションを行っています。それを行う際の会場構成、宣伝も部員どうし議論を重ね、制作を行います。一年間の活動で最も大きいものは、創部以来30年以上続いている、学園祭におけるインスタレーション空間でカフェを運営することです。今年度の学園祭では、約4万本の糸を使ったインスタレーションを行い、たくさんの方々にお越しいただきました。今後ともこれを続けていけるよう応援よろしくお願いします。



## 陸上競技部

部長 安達 大輝  
(物質工学課程 3回生)

私たち陸上競技部は、現在部員29人で活動しています。練習は基本、平日はフリー、土曜日や祝日や長期休暇中は朝9時から練習しています。2011年の実績に関しては、関西ICは2部に所属していますが、欠々に2人が8位以内の入賞を果たし、近畿国立大会でも、5種目で入賞を果たし、歴代記録も5000m、10000m、3000mSC、ハーフマラソン、マラソン、4×100mリレー、スウェーデンリレーで新記録が生まれ、ここ何年かでは最もいい結果を残せました。これも陰ながら応援してくれているOBの方々のおかげであると思っているので本当に感謝しています。

2012年は、関西ICやびわ湖学生駅伝予選会で2011年以上に結果を残し、京都学生駅伝では過去最高の成績を残せるようにしていきたいと思っています。このように結果を残すことも大事なのですが、部員1人、1人が切磋琢磨して1人でも多く自己ベストが出せるように、部全体で楽しく練習していこうとする姿勢がもっと大事だと思うので、それを忘れないようにしたいです。そのためにも、これからもOBの方々の助けを借りることもありますが、よろしくお願いいたします。



## 叙位・会員の受賞

- 母校名誉教授池田有隣氏に、平成23年4月29日付けで瑞宝中綬章が授与されました。
- 母校名誉教授(生産機械昭和40年卒業)山口克彦氏に、平成23年5月27日、社団法人日本塑性加工学会から名誉会員の称号が授与されました。

## 教員の受賞

所属	職名	氏名	受賞名	授与機関	受賞日
デザイン学部門	教授	山本建太郎	2010年度グッドデザイン賞(GOOD DESIGN AWARD 2010)を受賞(グループ受賞及び個人受賞)	財団法人日本産業デザイン振興会	平成22.11.10
デザイン学部門	教授	山本建太郎	iF product design award 2011を受賞	International Forum Design GmbH(Hannover)	平成23. 3. 1
応用生物学部門	教授 准教授	森 肇 小谷 英治	日本蚕糸学会進歩賞(技術賞)をグループ受賞	社団法人日本蚕糸学会	平成23. 3.20
機械システム工学部門	准教授	高木 知弘	平成22年度日本材料学会関西支部長賞を受賞	日本材料学会関西支部	平成23. 4.18
機械システム工学部門	准教授	高木 知弘	2010年度日本機械学会賞(論文)をグループ受賞	日本機械学会	平成23. 4.21
バイオベースマテリアル学部門	准教授	佐々木 園	第8回 CERI 最優秀発表論文賞を受賞(グループ受賞)	社団法人日本ゴム協会	平成23. 5.30
バイオベースマテリアル学部門	教授	櫻井 伸一	第8回 CERI 最優秀発表論文賞を受賞(グループ受賞)	社団法人日本ゴム協会	平成23. 5.30
生体分子工学部門	准教授	佐々木 健	日本文化財科学会第5回奨励論文賞を受賞(グループ受賞)	日本文化財科学会	平成23. 6.12
建築造形学部門	教授	鈴木 克彦	パッシブデザインコンペ技術製品部門優秀賞を受賞(共同受賞)	パッシブデザインコンペ実行委員会	平成23. 7.13
建築造形学部門	准教授	米田 明	京都府新総合資料館(仮称)公募型設計競技に入選	京都府	平成23. 9.20
先端ファイブ科学部門	教授	森本 一成	「歩くまち・京都」特別表彰受賞	京都市長	平成23.10.15
建築造形学部門	講師	佐々木厚司	大学のまち京都・学生のまち京都推進特別表彰を受賞(グループ受賞)	京都市長	平成23.10.15
建築造形学部門	教授	鈴木 克彦	2010年度日本マンション学会共同研究業績賞を受賞(グループ受賞)	一般社団法人日本マンション学会	平成23.11. 5
建築造形学部門	准教授	角田 暁治	2011年度グッドデザイン賞を受賞(グループ受賞)	公益財団法人日本デザイン振興会	平成23.11. 9
機械システム工学部門	准教授	森田 辰郎	平成23年度技術賞を受賞	社団法人日本チタン協会	平成23.11.14
建築造形学部門	教授	日向 進	山口県選奨を受賞	山口県知事	平成23.11.18
機械システム工学部門	准教授	高木 知弘	ゴードンベル賞・特別賞を受賞(グループ受賞)	米国計算機学会	平成23.11.18
情報工学部門	教授 准教授	黒江 康明 森 禎弘	優秀論文賞を受賞(グループ受賞)	計測自動制御学会システム・情報部門	平成23.11.22
電子システム工学部門	教授	門 勇一	Session's Best Paper Award を受賞(グループ受賞)	International Institute of Informatics and Systemics	平成23.12. 2
情報工学部門	教授	柴山 潔	情報処理学会のフェローとして認証された。	(社)情報処理学会	平成24. 3. 7

## 教員の異動

平成24年4月1日現在

所属	職名	氏名	備考
大学院工芸科学研究科(設計工学系 先端ファイブ科学部門)	助教	山田 和志	平成23年6月1日 採用 任期は平成28年5月31日までとする
大学院工芸科学研究科(生命物質科学系 応用生物学部門)	准教授	志波 智生	平成23年6月16日 採用
大学院工芸科学研究科(造形科学系 建築造形学部門)	教授	VIRAY ERWIN JOHN SORIANO	平成23年7月1日 採用
大学院工芸科学研究科(基盤科学系言語・文化部門)	教授	林 千恵子	平成23年8月1日 昇任
大学院工芸科学研究科(生命物質科学系 高分子機能工学部門)	准教授	西川 幸宏	平成23年12月1日 昇任
情報科学センター	教授	澁谷 雄	平成24年1月1日 任期を更新する (平成24年1月1日から平成28年12月31日まで)
ショウジョウバエ遺伝資源センター	教授	高野 敏行	平成24年2月16日 採用
大学院工芸科学研究科(基盤科学系 数理・自然部門)	教授	井川 治	平成24年4月1日 採用
生物資源フィールド科学教育研究センター	教授	中元 朋実	平成24年4月1日 採用
大学院工芸科学研究科(基盤科学系 数理・自然部門)	教授	萩原 亮	平成24年4月1日 昇任

所 属	職 名	氏 名	備 考
保 健 管 理 セ ン タ ー	教 授	荒 井 宏 司	平成24年4月1日 昇任
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (生 命 物 質 科 学 系 応 用 生 物 学 部 門)	教 授	半 場 祐 子	平成24年4月1日 昇任
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (生 命 物 質 科 学 系 高 分 子 機 能 工 学 部 門)	教 授	池 田 憲 昭	平成24年4月1日 配置換
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (生 命 物 質 科 学 系 応 用 生 物 学 部 門)	教 授	伊 倉 宏 司	平成24年3月31日 定年退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (生 命 物 質 科 学 系 応 用 生 物 学 部 門)	教 授	杉 村 順 夫	平成24年3月31日 定年退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (生 命 物 質 科 学 系 生 体 分 子 工 学 部 門)	教 授	黒 田 裕 久	平成24年3月31日 定年退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (生 命 物 質 科 学 系 高 分 子 機 能 工 学 部 門)	教 授	板 谷 明	平成24年3月31日 定年退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (設 計 工 学 系 : 情 報 工 学 部 門)	教 授	三 木 博 雄	平成24年3月31日 定年退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (設 計 工 学 系 機 械 シ ス テ ム 工 学 部 門)	教 授	高 倉 章 雄	平成24年3月31日 定年退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (造 形 科 学 系 建 築 造 形 学 部 門)	教 授	日 向 進	平成24年3月31日 定年退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (基 盤 科 学 系 : 数 理 ・ 自 然 部 門)	教 授	志 波 康 博	平成24年3月31日 定年退職
シ ョ ウ ジ ョ ウ バ 工 遺 伝 資 源 セ ン タ ー	教 授	山 本 雅 敏	平成24年3月31日 定年退職
生 物 資 源 フ ィ ー ル ド 科 学 教 育 研 究 セ ン タ ー	教 授	角 田 素 行	平成24年3月31日 定年退職
生 物 資 源 フ ィ ー ル ド 科 学 教 育 研 究 セ ン タ ー	教 授	巽 二 郎	平成24年3月31日 定年退職
保 健 管 理 セ ン タ ー	教 授	知 念 良 教	平成24年3月31日 定年退職
創 造 連 携 セ ン タ ー	教 授	山 田 保 治	平成24年3月31日 退職
伝 統 み ら い 教 育 研 究 セ ン タ ー	准 教 授	仲 井 朝 美	平成24年3月31日 退職
大 学 院 工 芸 科 学 研 究 科 (設 計 工 学 系 : デ ザ イ ン 経 営 工 学 部 門)	助 手	杉 本 正 勝	平成24年3月31日 退職

## 平成23年度 博士学位取得者と学位論文題名

### ○課程修了によるもの（課程博士）

（平成23年9月26日授与）

申 請 者	論 文 題 目
河 森 秋 人 (か わ も り あ き ひ と)	Studies on molecular mechanism of insect development
木 原 眞 実 (き は ら ま み)	Studies on C-type lectin expressed in mouthparts (CLEM) 20 and 36 of the flesh fly, <i>Sarcophaga peregrina</i>
宮 武 岳 洋 (み や た け た か ひ ろ)	Polarized Raman spectroscopy for the spatially and tensor-resolved stress analysis of silicon microdevices
池 側 隆 之 (い け が わ た か ゆ き)	情報環境に呼応するデザイン方法論における映像の役割
Patcharat WONGSRIRAKSA (ぱ ち ゃ ら と う ん し ら く さ)	Fabrication and Mechanical Properties of Continuous Natural Fiber Reinforced Thermoplastic Composites by Braiding Technique
康 健 (か ん じ あ ん)	STUDY ON FIBER, PARTICLE FORMATION OF WATER-SOLUBLE EGGHELL MEMBRANE WITH BIOCOMPATIBLE MATERIALS
太 田 達 (お お た と お る)	3次元動作解析を用いた茶道点前技術の基礎的研究
坂 井 貴 行 (さ か い た か ゆ き)	紐の製造技能と物性に内在する「暗黙知」の工学的応用
田 島 武 治 (た じ ま た け は る)	エレクトロスピンニング法によるポリ-γ-グルタミン酸ナノファイバーの創製と特性評価
石 見 浩 之 (い わ み ひ ろ ゆ き)	射出成形品の表面不良に対する解決方法に関する研究



## ○論文提出によるもの（論文博士）

（平成23年9月26日授与）

浅田 晶久 (あさだ まさひさ)	京瓦の物性と伝統技法「磨き」の研究
---------------------	-------------------

## ○課程修了によるもの（課程博士）

（平成24年3月26日授与）

荒木 斉 (あらか ひとし)	Syntheses of Optical Transparent Film Forming Polyhedral Oligomeric Silsesquioxane by Shape-Design
香山 真理子 (こうやま まりこ)	Studies on High Frequency Dynamic Ultrasound Scattering and Its Application to Suspended Polymer Systems
後藤 紗希 (ごとう さき)	哺乳動物のヘムによる転写調節機構の解明
高橋 康仁 (たかはし やすひと)	SPECTROSCOPY FOR MEDICAL DEVICES IN HIP ARTHROPLASTY : CERAMIC AND POLYMER BIOMATERIALS
増谷 一成 (ますたに かずなり)	New synthesis of stereoblock polylactides having controlled sequences and properties
Uschara THUMARAT (あーちやら たまらーと)	Biochemical, genetic and structural analysis of cutinases from <i>Thermobifida alba</i> AHK119
TUAN THANH CHAU (とうあん たん ちゃう)	New Approach in Application of Ferrocyclase onto Meat Processing to Generate Meat Color
VAN PHAM DAN THUY (ばん ふあむ だん すい)	Interferometric Studies on the Elastic Strain and Its Relaxation Process Induced by Photo-cross-link Reaction in Polymeric Systems
脇 玲子 (わき れいこ)	Temporal and Spatial Analysis of RNA Expression in Living Cells Using RNA-specific Fluorescent Probes
大木 健輔 (おおき けんすけ)	低アスペクト比 RFP プラズマにおける準シングルヘリシティ状態の磁場計測による特性評価
角江 崇 (かくえ たかし)	ホログラフィによる高速度3次元動画イメージングとその高機能化
富永 依里子 (とみなが よりこ)	Bi系 III-V 族半導体半金属混晶のレーザ特性と量子井戸に関する研究
鄭 孝眞 (じょん ひょじん)	再生紙に対する色彩許容度の数量化
岩松 隆則 (いわまつ たかのり)	OFDM 通信方式における多重波干渉除去と伝搬路推定の信号処理技術に関する研究
藤田 浩三 (ふじた こうぞう)	乾燥食材の微粉碎・乾燥微粉末食材用非加熱殺菌装置の開発
金 廷坤 (きむ じゅんこん)	Raman scattering studies of group-III nitride semiconductors
左 祥 (さ しょう)	Two Key Technologies for a Flexible Speech Interface : From the Perspective of Human-Robot Interaction
中西 大輔 (なかにし だいすけ)	近世における賀茂別雷神社の役大工に関する史的研究
MONICA PEREZ BAEZ (もにか べれす ばえす)	ADAPTIVE REUSE AND SUSTAINABLE COMMUNITY ACTIVATION TO INCREASE URBAN GREEN AREAS
高木 彬 (たかぎ あきら)	都市・建築空間の文学的研究—稲垣足穂と村上春樹から東京と神戸を読みかえる—
佐藤 萌 (さとう もえ)	Scientific studies on the conservation of black-dyed raw silk yarns used for Japanese ceremonial dolls' hair in the Edo period
藤原 幹彦 (ふじわら みきひこ)	ポリプロピレン複合材料のスクラッチ特性発現機構に関する研究
VADEE CHIVATANASOONTORN (わでい ちばたなすーんとーん)	Study on Structure and Surface Fracture of Polymers under Scratch Loading
天野 良三 (あまの りょうぞう)	人造大理石の温水劣化のメカニズムおよび硬化度の物性に及ぼす影響に関する研究
奥山 誠義 (おくやま まさよし)	シンクロトロン放射光顕微赤外分光分析法による出土染織文化財の材質分析と劣化状態の解析に関する研究

## ○論文提出によるもの（論文博士）

（平成24年3月26日授与）

出町 耕一 (でまち こういち)	熱流補償法を用いて測定した深部組織温の運動時における有用性に関する研究
---------------------	-------------------------------------

# 卒業生・修了生の就職先・進学先

(平成23年度 進路先内定状況一覧)

(☆印は進学先を示す)

## 工芸科学部

学生サービス課就職支援室長 大角 英造

(H24. 2.20現在)

### 応用生物学課程

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
ポッカコーポレーション	1	三井食品	1	山崎製パン	1	☆大阪大学	3
☆京都工芸繊維大学	34	☆京都大学	6	☆東京大学	1		

### 生体分子工学課程

京セラソーラーコーポレーション	1	協和メデックス	1	シーマ	1	世田谷区役所	1
東和薬品	1	日本生命保険	1	日本バイリン	1	MonotaRO	1
和研薬	1	☆京都工芸繊維大学	30	☆京都大学	1	☆東京医科歯科大学	1

### 高分子機能工学課程

綾羽工業	1	カケンテストセンター	1	新中村化学工業	1	YKK	1
☆京都工芸繊維大学	46	☆京都大学	1				

### 物質工学課程

アイレップ	1	出光興産	1	大阪府 教員	1	大阪府警察	1
京都銀行	1	クイック	1	小泉製麻	1	三栄源エフ・エフ・アイ	1
白石中央研究所	1	大都技研	1	タスキん伏見	1	東罐マテリアル・テクノロジー	1
東レ(既職)	1	日新薬品工業	1	ブリヂストン	1	マツイカガク	1
宮川化成工業	1	☆京都工芸繊維大学	50	☆京都大学	2		

### 電子システム工学課程

関電エネルギーソリューション	1	キャノン	1	京都電機器	1	きんでん	1
昭和電線ホールディングス	1	マイスターエンジニアリング	1	ミスノ	1	村田機械	1
☆大阪大学	2	☆九州大学	2	☆京都工芸繊維大学	43	☆京都大学	1
☆東京大学	1	☆奈良先端科学技術大学院大学	1				

### 情報工学課程

全国農業協同組合連合会	1	住友電工情報システム	1	ソフトクリエイター	1	リゾートアーツ	1
ローム	1	☆京都工芸繊維大学	41	☆京都大学	2	☆東京工業大学	1
☆奈良先端科学技術大学院大学	1						

### 機械システム工学課程

IHI 運搬機械	1	アイシン・エイ・ダブリュ	1	オムロン	2	川崎重工業	1
京都製作所	1	クボタ	1	新日本工機	1	タダノ	1
椿本スプロケット	1	TMT マシナリー	1	豊田合成	1	豊田自動織機	1
中西金属工業	1	村田製作所	1	ユーアール代官山スタジオ	1	☆大阪大学	3
☆京都工芸繊維大学	53	☆京都大学	1	☆名古屋大学	1		

### デザイン経営工学課程

愛知	1	エレコム	1	カトーテック	1	クオリカ	1
KCCS マネジメントコンサルティング	1	ジェーエムエーシステムズ	1	滋賀富士通ソフトウェア	1	鳥津製作所	1
大丸松坂屋百貨店	1	谷口工務店	1	中川政七商店	1	富士ゼロックスシステムサービス	1
楽天	1	ワークスアプリケーションズ	1	☆京都工芸繊維大学	15		

### 造形工学課程

伊田工務店	1	エイジェックスコミュニケーションズ	1	大林組	1	京都市上下水道局	1
クラウンエクステリア	1	ケーケーシー情報システム	1	コトブキシーティング	1	スタートトゥデイ	1
スペース	1	住居時間-スマイルタイム-	1	大気社	1	大建工業	1
大東建託	1	大和ハウス工業	1	戸田建設	1	鳥取県	1
ハート	1	PD システム	1	フジタ	1	ミサワホーム中国	1
☆大阪市立大学	1	☆京都工芸繊維大学	52	☆京都大学	3	☆横浜国立大学	2

### 先端科学技術課程

京都府警察	1	DTS	1	能美防災	1	メディック	1
ヤマザキマザック	1	☆京都工芸繊維大学	10				

## 大学院工芸科学研究科博士前期課程

### 応用生物学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
味の素ゼネラルフーズ	1	イービーエス	1	大塚食品	1	奥野製業工業	1
小野薬品工業	1	川西市	1	環境衛生薬品	1	京都市 教員	1
京都府 教員	1	クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン	1	倉敷紡績	1	寿精版印刷	1
三笑堂	1	三洋輸送機	1	鳥津総合分析試験センター	1	シミック	1
シャルレ	1	松風	1	昭和プロダクト	1	清教学園	1
ダイセル	1	大日本住友製薬	1	タカラバイオ	1	田辺三菱製薬	1
東京工業大学	1	中野製薬	1	ナリス化粧品	1	日東富士製粉	1
農林水産省 植物防疫所	1	ハクゾウメディカル	1	ピアス	1	フェーズオン	1
ライオンケミカル	1	ロックベント	1				

### 生体分子工学専攻

ADEKA	1	宇部興産	1	尾池工業	1	熊野油脂	1
グンゼ	1	KB セーレン	1	JSR	1	シスメックス	1
新日本理化	1	スターライト工業	1	住友ゴム工業	1	ダイセル	1
テルモ	1	東和薬品	1	日本触媒	1	日本合成化学工業	1
日本写真印刷	1	日本精化	1	バネフ工業	1	マツイカガク	1
松浪硝子工業	1	村田製作所	2	モンスター・ラボ	1	LIXIL	1
ワイエムシィ	1	☆京都工芸繊維大学	1				

### 高分子機能工学専攻

荒川化学工業	2	アルバック	1	大阪有機化学工業	1	カネカ	1
京セラミタ	1	京都学園	1	栗田工業	1	グローリー	1
鳥津製作所	1	シャープ	1	住友ゴム工業	2	積水化成工業	1
タイガー魔法瓶	1	ダイニツク	1	ダイフク	1	タカタ	1
TDK	1	テイカ	1	東京インキ SC ホールディングス	1	東洋アルミニウム	1
東洋ゴム工業	1	東洋紡績	1	東リ	1	東レ	1
Dragon 10	1	ナガノサイエンス	1	日亜化学工業	1	日産車体	1
日東精工	1	日本ペイント	1	ピアス	1	日立ソリューションズ	1
ヒラノテクシード	1	富士ゼロックス	1	三菱樹脂	1	三ツ星ベルト	1
メイテックフィルダース	1						

物質工学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
岩谷瓦斯	1	栄光社	1	AGCセラミックス	1	エスケー化研	1
大阪特殊合金	1	加貫ローラ製作所	1	関西電力	1	京セラ	1
京都府 教員	1	ケイミュー	1	ケミプロ化成	1	三洋化成工業	2
島津製作所	1	ステラケミファ	1	セントラル硝子	1	第一稀元素化学工業	1
第一工業製薬	1	ダイキン工業	3	大日本スクリーン製造	1	田中化学研究所	1
WDB エウレカ	1	TDK	1	東洋炭素	1	東リ	1
トクヤマ	1	豊田通商	1	ニッカトー	1	日本特殊陶業	2
日本バーカライジング	1	日本ペイント	1	ノーテック	1	ハイテック(旧アドバンテージ・サイエンス)	1
久光製薬	1	日立化成ポリマー	1	福田金属箔粉工業	1	明成化学工業	1
レーザー技術推進センター(既職)	1	☆京都工芸繊維大学	1	☆京都大学	1		

電子システム工学専攻

関西電力	4	京セラミタ	1	GS ユアサ	1	ジーエス・ユアサコーポレーション	1
島津製作所	3	住友電気工業	1	ダイキン工業	1	タツタ電線	1
ディスコ	1	デンソーウェーブ	1	東海旅客鉄道	1	東京エレクトロン	1
トヨタ自動車	1	豊田自動織機	1	西日本旅客鉄道	2	日本無線	1
パナソニック	2	浜松ホトニクス	1	富士通テンテクノロジー	1	三菱自動車工業	1
三菱電機	2	三菱電機特機システム	1	村田機械	1	ローム	1
ローム浜松	1	☆京都工芸繊維大学	2				

情報工学専攻

ウルシステムズ	1	エヌ・ティ・ティ・システム開発	1	NEC 通信システム	1	NTT データセキュリティシステムズ	2
関電システムソリューションズ	1	京セラ	1	京セラミタ	1	京都工芸繊維大学	1
警察庁近畿管区警察局	1	Sky	1	セイコーエプソン	1	ソニー	1
大日本印刷	1	TIS	1	デンソー	1	トヨタ自動車	1
西日本旅客鉄道	1	日工電子工業	1	日本総合研究所	1	パナソニック	1
パナソニックセミコンダクターシステムテクノ	1	日立システムズ	1	日立製作所	1	日立ソリューションズ	1
富士通	2	三菱自動車工業	1	三菱電機	3	三菱電機インフォメーションシステムズ	1
三菱電機コントロールソフトウェア	1	三菱電機情報ネットワーク	1	三菱電機マイコン機器ソフトウェア	1	ヤマハ発動機	1
リョーイン	1	ワークスアプリケーションズ	1	☆京都工芸繊維大学	1		

機械システム工学専攻

IHI	1	川崎重工業	1	キヤノンマシナリー	1	クボタ	1
京阪セロファン	1	神戸製鋼所	1	コベルコ科研	1	小松製作所	1
ジーエス・ユアサコーポレーション	2	JFE エンジニアリング	1	島津製作所	1	シャープ	1
神鋼環境ソリューション	1	スズキ	1	ダイハツディーゼル	1	ダイフク	1
高槻市	1	樺本チエイン	1	東洋ゴム工業	1	東レ	1
トラスト・テック	1	南海電気鉄道	1	日産自動車	1	日東精工	1
日本板硝子	1	任天堂	1	ノリタケカンパニーリミテド	1	パナソニック	2
阪神高速技術	1	日立造船	2	不二越	1	堀場製作所	1
マキタ	1	村田機械	1	村田製作所	1	モルテン	1
ヤマハ発動機	1	ローランドディー・ジー	1	☆京都工芸繊維大学	1	☆京都大学	1

デザイン経営工学専攻

NEC ネットエスアイ	1	岡村製作所	2	シャープ	1	TOTO	1
日本任着端子製造	1	日本ミシュランタイヤ(既職)	1	パナソニック電工	1	マクロミル	1
三菱電機	1	USJ	1				

造形工学専攻

京都府	1	シービーリチャードエリス	1	積水ハウス	1	大和ハウス工業	1
奈良県	1	西日本高速道路	1	日立ソリューションズ	1	ブリヂストンサイクル	1
北條建築構造研究所	1	☆京都工芸繊維大学	1				

デザイン科学専攻

カリモク家具	1	サンリオ	1	ソニー	1	大和ハウス工業	1
電通クリエイティブX	1	任天堂	2	パナソニック	1	富士通	1

建築設計学専攻

鴻池組	1	ジェイアール西日本コンサルタンツ	1	ジェイアール東日本建築設計事務所	1	昭和設計	1
瀬戸本淳建築研究室	1	日本設計	1				

先端ファイブ科学専攻

出光ライオンコンボジット	1	川崎重工業	1	関西ティー・エル・オー(既職)	1	関西電力	1
京装コンピューター	1	栗田工業	1	佐々木化学薬品(既職)	1	サムコ	1
島田商事	1	シミズ	1	下出時絵司所	1	スズキ	1
住江織物	1	住友電装	1	セイコー化工機	1	soliton corporation(既職)	1
大八化学工業	1	瀧定名古屋	1	タクマ	1	デルタ工業	1
東洋ゴム工業	1	VSN	1	船井総合研究所	1	三菱電機	1
村田機械	1	村田製作所	1				

バイオベースマテリアル学専攻

ADEKA	1	荒川化学工業	1	アリミノ	1	一方社油脂工業	1
カネカ	1	京セラ	1	クボタシーアイ	1	住友ゴム工業	4
第一工業製薬	1	タカラベルモント	1	東洋ゴム工業	1	長瀬産業	1
日東電工	1	日本電気硝子	1	日本ペイント	2	日立化成工業	1
YKK	1						

大学院工芸科学研究科博士後期課程

生命物質科学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
科研製薬(既職)	2	京都工芸繊維大学	1	東レ(既職)	1	農業生物資源研究所(既職)	1
パナソニック電工(既職)	1						

造形科学専攻

京都確認検査機構(既職)	1	名古屋大学(既職)	1				
--------------	---	-----------	---	--	--	--	--

先端ファイブ科学専攻

井植インターナショナル(既職)	1	出光テクノファイン(既職)	1	老松(既職)	1	大阪成蹊大学(既職)	1
カジレーネ(既職)	1	京都工芸繊維大学	2	三晶(既職)	1	住友化学(既職)	1
田勇機業(既職)	1	帝人(既職)	1	奈良県立橿原考古学研究所(既職)	1	リックモールドラボ(既職)	1
☆グラスゴー大学	1						

## ■ 表紙デザインについて

デザインさせて頂く際に最初に思いましたことは、若き日の学生時代に学んだこと、想ったこと、感じたこと… それらは、同窓生それぞれの人生に於いていろいろな意味で基盤を成しているということです。

それらは、卒業後何十年も意識の下に眠り、ある局面に遭遇したときにふと活動の水面に浮かび上がって来るようなものなのかも知れません。

これらは、具体的な意味をもった対象やカタ

チの場合もあれば、充滿している空気や感触のようなものとなって定着していることであろうかと思われま

す。今回の表紙デザインは、本学を感じる「テキストチャー」で構成いたしました。

どうぞ、同窓会誌「工織」をお手元に、読んで感じていただくと幸いです。

デザイン学部門准教授 西村雅信  
(意匠工芸学科 昭和59年卒)

## ■ 編集後記・HPの刷新

江島学長と本城会長が記事の中で触れておられます「教育研究地域交流会」に同行させて頂きました。先輩や後輩との交流はいつも楽しく、皆さまの本学に寄せる思いの強さをすべての会場で実感しました。在学されていた当時の古き良き学生時代の話や、地域の特色的な話、卒業後の会員間の連携話等で大いに盛り上りました。和やかな中にも今後の大学を研究や資金の面で支援して行きたいとの力強い活発な意見もあり、KIT 同窓会と本学の両者にとって大変有意義で充実した交流会となりました。特に、東京会場では竹末俊昭氏(意46卒)から「デザインを核とした『ものづくりカフェ』の試み」と題した講演があり、その後の懇親会での交流をきっかけとして本年1月にKIT 東京会が発足しました。また、この交流会を契機に学生の募集を頂いた企業もあり在學生との交流の輪も広がりつつあります。現地に足を運んでFace to Faceの交流をすることがいかに大切かを再認識しました。

さて、同窓会誌 No.6の発行を機会に会誌の刷新に取組みました。これまでは大学の状況をお伝えすることに多くの誌面を割いていましたが、本号では会員の皆さまの声をできるだけたくさん掲載することを目標にしました。お陰さまで全体の半分以上を会員の皆さまからの記事で占めることができました。深く御礼申し上げます。会誌のレイアウト変更にも着手し学生か

ら斬新なアイデアをもらいましたが、何分、原稿の集まり具合と編集期限との兼ね合いから、レイアウト変更の時間がないということで当初の計画は叶いませんでした。

また、ホームページを活用して卒業生と在學生との交流ができるようにとの要望がありましたので、HPの刷新にも取りかかりました。その際に在學生の協力を得ながら進めることにしました。卒業する時は次の学生にバトンタッチしていくという形態です。こうすることで同窓会に関わる人が徐々に増えます。

実は前号の会誌編集に相当な神経と時間を費やしましたので、今回はより小回りの効く編集委員会を結成し、効率的な作業を試みました。しかし、時間もページ数も限られていますので、調整がつかず記事の掲載を諦めて頂いたり、極端な場合は2ページ原稿を1ページにして頂いた方もあります。この場をお借りしてお詫び申し上げます。また、編集委員の皆様方には常に貴重なアイデアをたくさん出して頂き楽しい議論ができましたし、様々な場面で大変なお骨折りを頂きました。ありがとうございました。

最後に、会員諸氏の益々のご発展を祈念致します。また、本同窓会へのたゆまぬご配慮ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

編集委員長 森本 一成  
(電子工学科 昭和51年卒)

新 URL <http://www.kit-obog.com>

京都工芸繊維大学同窓会 KIT同窓会誌 No.6

平成24年4月発行

発行所: 京都工芸繊維大学同窓会  
(略称「KIT同窓会」)

〒606-0956 京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1

Tel/Fax: (075)724-7232

e-mail: kit-obog@jim.kit.ac.jp

URL: <http://www.kit-obog.com>

KITビューロー-Tel: (075)724-7972

振替口座: 00960-3-224524

印刷所: (株)北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

Tel: (075)791-6125

Fax: (075)791-7290